

Title	玉伝深秘巻解題稿
Sub Title	
Author	石神, 秀美(Ishigami, Hidemi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1991
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.26 (1991.) ,p.209- 264
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000026-0209

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

玉伝深秘卷解題稿

石 神 秀 美

本稿が試みようとするのは、東常縁・宗祇を遡る古い古今伝授に用いる伝書、「玉伝深秘卷」の書誌的解説である。筆者の一般的志向は前近代の、主として文学関連テクストの含む思想的な側面の記述を目指すものであり、「玉伝深秘卷」をはじめとする特異な伝書に、中世的諸相探究への端緒を見出していることが、一見の限り愚劣極まるこの種の対象を扱う理由である。けれども、追ってこころみるべき内容検討の一方、現存諸本の紹介・整理が行なわれなければならないであろう。無論、井上宗雄氏『中世歌壇史の研究』片桐洋一氏『中世古今集注釈書解題』の該当論述や、特に三輪正胤氏の今も進行中の御研究が存在する。錯雑そのもののこの分野では、三氏の成果なしには一

歩も進み得ないことが明らかである。が、片桐氏が同書巻末で期待される通り、後続する者の更に追求すべき課題も、必ずしも僅少とはいえないように思う。新資料の発見、現存伝本の書誌上のより詳細な報告、伝本間の関係の再考等は、関連分野を含めた広範な視野からの内容上の検討と併せ、今後とも進められる必要がある。筆者も新たな資料と、諸本の関係に対する、粗略ながらも概括的視点とを見出し得たと考えている。

現在までに寓目した伝本の数は、異本・略本を含め都合十二本である。これを通覧して、形態上第一に注意されたのは、本文の繁粗の差がやや激しく、小項目の配列の相違も僅かではないことであった。従って、いくつかに大別は可能でも、諸本間

に厳密な系統を樹てることには、かなりの困難を感じないわけにはいかない。また従って、諸本の冒頭から巻次をおって重ね合わせた通常の校勘の不可能を考えざるを得ない。片桐洋一氏の翻刻もその事情にあわせ、底本である神宮文庫本に、相当の項目の配列の違い、少なくない異文を持つ、名古屋大学図書館本を部分的に勘案し、若干の語句を補い漢字を宛てなどする以上の、積極的校勘は加えておられないといつてよからう。

しかし同時に、配列は異なっても、各部分ごとに照らし合わせるなら、字句の合致する場合の多いことも確かであって、片桐氏が、まず整理の第一歩にと採られた方法は、神宮本・名大本の両本に、それぞれ内容上細区分を与えて（その際まま記される篇名、乃至小題といふべき題名が区分の格好の目安になる）対照表をつくり、項目の出入を示すことであつた。こうした操作によりあらためて一目瞭然となつたのは、筆者には次のことであると思われる。即ち先ず、「玉伝深秘卷」は内容に伏在する物語はあるとしても一貫した筋を読みとるべきではなく、いくつかに明確な区分が可能で、それらは各々独立性が高い、換言すれば部分の雑多な集合だと思われること。次に、各項、錯簡が原因と思われる、通意にも不便を感じるほどの本文上の唐

突さ・混乱は殆ど存在しないのだから、いずれかの段階で編成がえ・増補削省が行なわれた結果が、両本の配列の差・項目の出入となって顕れていること、つまりその差違は誤綴・誤脱を主要原因としないこと、である。

現存諸本間に於てもこの一般則の存在することは、異本即ち「金玉双義」の出現によって一段と明瞭になつたと信ずる。

また片桐氏は、各項に付す小題に注目し、その多くが菅ての氏の紹介に掛る、文保ごろという冷泉家の蔵書目録、即ち「私所持和歌草子目録」（堀部正二のノート中に写され、冷泉為久の本奥書「以文保之比筆跡写留了」を有する）『和歌史研究会会報』第8号 昭和37年12月・「同補正」『同報』第11号 昭和38年11月）と題する書目のなかの「抄物」の部に列挙のある草子名と合致することを指摘される。その場合の「草子」とは古今集・伊勢物語など一冊の大きな冊子本は勿論のこと、十五番歌合のようなわずか数紙もあれば足りる、薄い冊子本も含んでいる。そして現存の所謂「玉伝深秘卷」は、この種の秘事を記すうすい草子を一括集成し一書とした伝書なのではないか、よつて「玉伝深秘卷」という題名も、本来は決して総題と考えるべきなのではなくて、寓々冒頭に配された一篇の名にすぎぬので

はないか、と推測された。

筆者の作業も以上の論旨を出発点としている。この推定に即し、諸本整理の発端に、筆者も内容に細区分を与え、項目の対照表を作成した。ただし、諸本対比して明らかになる、草子的纏まりに配慮し、また他方細項目的纏まりにも留意した結果、片桐氏の区分とは小異が生じている。

以下、諸本解題・小題細目・同対照表の順で稿を進める。内容上の詳論は別途用意したい。

諸本解題

先ず現存諸本を分類するなら次の通りである。尚二、三項の独行、他の伝書中への引用は除外し、分量ある諸例に限定した。

第一類

第一系 宮内庁書陵部蔵C本（書陵部C本）

第二系 国文学研究資料館初雁文庫蔵本（初雁本）

第二類

第一系

イ 慶応義塾大学附属研究所斯道文庫蔵本（斯道本）

ロ 名古屋大学附属図書館神宮皇学館文庫蔵本（名大

本）

第二系

イ 祐徳稲荷神社蔵A本（祐徳A本）

祐徳稲荷神社蔵B本（祐徳B本）

ロ 水府明徳会彰考館文庫蔵A本（彰考館A本）

曼殊院蔵本（曼殊院本）

第三系

イ 神宮文庫蔵本（神宮本）

ロ 水府明徳会彰考館文庫蔵B本（彰考館B本）

宮内庁書陵部蔵A本（書陵部A本 片桐氏の称）

宮内庁書陵部蔵B本（書陵部B本 同右）

次に二類に区分する指標を述べるなら、第一に、項目の並びの差違である。ひとつは、冒頭が「金玉双義」で開始される伝本と、ひとつは、「玉伝深秘卷」で開始される伝本と、ひとつは、「玉伝深秘卷」で開始される伝本とに二分される。指標の第二に、流传系路の差違である。ひとつは、細目に引用した「血脉奥書秘歌」の項に記される通り、授者為頭から受者能基に分肢する流れ、他は受者神垂（或は神乗）に分肢する流れ、の二系路で、前者が「金玉双義」を冒頭に置き後者が「玉伝深秘卷」を冒頭に置く。指標の第三に、各々に存す

る独自の項目の存在である(但、略本と思しき初雁本・斯道本はこの観点からの比較に好適ではない)。この出入の詳細は細目の対照表に示されている。その中で最も重要な差違を指摘しておく、まず、第一類(冒頭「金玉双義」)に存在する61「伊勢物語要文哥集」・67以下「伊勢物語口伝」(書陵部C本による小題)が、第二類(冒頭「玉伝深秘卷」)にはないこと、一方逆に、第二類にある7「玉伝深義口決」・8「七歌鳥風問答記」・44「物名譚深秘口伝記之并台類事」・54「人丸出所縁起上家」・55「赤人出所縁起上家」・56「赤人の縁起以前雖_レ写_ニ上家本_ニ重而書_レ之下家」(名大本による小題)が、第一類にはないこと、である。

第一類本は、広本的な書陵部C本と、独自項目もあるものの、一応略本的な初雁文庫本とに分けられよう。ただ、初雁文庫本の3「阿波路国口伝」以下10「古今伝受加行次第日数如密宗」までは、特に長い独自異文である。しかし他の主要部の並びは書陵部C本の順にそって抜粋点綴したかの印象がある。やはり近接関係にあるものと思う。

第二類本は、僅かな差違をも無視せずに系を樹てるなら、十本全てを各々一系としたい程だが、一方類似する点もあるので試みに、表にもとづき項目中心に三系に区分し次でいくつかに

細分した。その配置にも留意している。つまり第一類本と比較し、共通項の多い伝本ほど淵源に近いという想定のもとに、まず項目の出入・項目の分割の方法・小題の有無等に於て、一類本と類似点の顕著な順に配している。次に奥義抄等の増補・行文の簡略化のような後代の操作と認められる点の僅かな順に配している(但、項目を選択的に抽出した斯道本にはこの意味の操作は加わらずと解する)。現存諸本の中に淵源から順次増補・簡略化を被りつつ分岐する経緯をいささかでも垣間見ようと努めたわけである。基本に置いたのは僅かな脱落も想定されるためにロ本とした名大本である。第一系イ本斯道本は推定書写年次が室町後期で最も古い。略本であるからまず別に区分した。それ以外の諸本間の、項目の出入をやや詳しく示すと次の通りである。第二系本は、第一系本と比し若干の項目の減少がある。第一系名大本の小題でいう、30「大原大神の事(仮題)」・40「身足翁儀号三公伝 住縁」^(ミタリノオキケ)・52「千葉破深儀」・61「題哥書様」・62「題切紙同書やう」・63「和譚伝授灌頂私記 経信卿作」、さらに31以下の諸項への「深秘口伝集上(下)」という題が脱する。第二系の中にも種々の差があるのでイロの二区分を与えた。第三系本は、この諸項に加え、第一系名大本の小題でいう、2「三

十一字「文字極事」が脱し、³「三十一神」を巻尾に移す。そうして、他系との最大の差違は、三系諸本に奥義抄からの大量の増補が加わる点である。並んで、イ本神宮本を除外し正徹以下の奥書も加わる。またこの系の諸本は第一系名大本に比す時或は口授なども授受の間に介在したか、言い換えや字句の出入が本文中に多見される。同じく各本に差があるのでイロの二区分を与えた。特にロ本は数項目に於ては略抄本といたい程の簡略化が目につく。

さて以上第一類・第二類の各本を区分する場合の目安を粗く記した。なかで一・二類の区分の際伝授系路のちがいを有力な目安としたが、第二類の諸本にも、系路そのものではなく系路中の名に表記の違いが若干存在する。それも二類諸本を三系に分ける区分の一つの目安となし得る。ここで第一類本と併せ、諸本の後掲する「血脉」から前記分類表に対応させて伝授系路を簡単に示して置く。なお為家までは煩雑となるので省略に従った。

第一類

第一系 為顯―能基―快承―寿王曆

第二系 (血脉なし)

第二類

第一系

イ (血脉なし)

ロ 為顯―神垂―性即

第二系

イ 為顯―神乘(但、一箇所で「垂」―明覚

ロ 為顯―神乘―性印

第三系

イ 為顯―神乘―性仰

ロ 為顯―神垂―性予

ついで所見する諸本の書誌的概要を摘記する。ところでその際本来ならば、各本の形態に即して、内題(内題がなければ外題・目録題等)を以て標目を立て該本の大むねを標記すべきところであるが、特殊な側面を有する対象であることに鑑み、内題による標目を省き、所蔵者・写年・書写者・大きさ・冊数の順で諸本のあらましを示した後、やや詳細にそれらの形態的事項を付記している。繰返し述べる通り、そもそも所謂「玉伝深秘卷」は元来個別の題を付された薄い草子の集合より発すると考えられる。しかし一冊に書写され累次書写を重ねる一方、巻

頭の内題が最もよく内容を表示するという常識が普及する後代、巻頭を採って全巻を「玉伝深秘卷」の如く呼称し外題を記すことにもなったと思しい。いずれにせよ巻頭・外題ともその書の本来を示す書名とはいい難いであろう。といって強ちに汎称的仮題を付加するものはばかられる。当面は既述の方式に従い、便宜的に通称「玉伝深秘卷」を総題としても用いざるを得ない。

第一類第一系

宮内庁書陵部蔵C本（書陵部C本）

〔江戸末〕和気信徳写 半一冊

安政二年（一八五五）〔鷹司政通〕自筆奥書 日野（烏丸）

光政所持本の写

刷毛目表紙（二三・四×一六・五cm）。外題、左肩打付書「金

玉双義貫之作完」。装丁、袋綴。本文冒頭に「金玉双義」と記す。

但、これもまた本来的な総題と解すべきではなく、第一の篇名にすぎないであろう。料紙、薄手斐楮交漉紙の印刷野紙。その形式は単辺（一七・八×一二・八cm）、每半葉十行、版心、白口無魚尾。墨付八十二丁。七十二丁表に本文用紙を以て半丁分の補記（同筆）を貼付する。本文は漢字片仮名交りを用い、返

点共漢文風表記を多用する。また別記細目26「血脉年号奥書代ト秘歌」所引の歌を万葉仮名風に漢字表記とする。稀に書写者カに加える傍記が存している。依拠本が既に同じ傾向にあったのか、誤記が散見され、本文は概してあまり良好な状態にない。しかし他本にない項目も多く、61「伊勢物語要文哥集」が「冷泉家流伊勢物語抄」（片桐洋一氏の用いた仮題）の略出本であり、血脉に「古今和歌集序聞書三流抄」（片桐氏の仮題）の編者とされる「能基」の名・出自が記されるなど、諸本中最も重視すべき未紹介の伝本である。

本奥書はなく、鷹司政通が巻末に次のような加証の奥書のみを加えている。

ひの中納言光政卿より借用令和気／信徳写之早

安政二年孟春尽日

関白（花押）

此一冊無疑非著述于貫之也專真言説且後人之伝／貫之後歴數百年人々且片名非古体以何／紀氏述作云物歟（花押）

前記の、「玉伝深秘卷」が全篇に及ぶ題名と解されるようになったのと同様の経過によってか、「金玉双義」なる冒頭の篇名が全体を覆う題名と誤解されている。また定家・為家など後代

の歌人の名も記される等の所以を以て本書の作者に貫之がなり得ないことを述べる(但、貫之作と主張されたのが、元来は首一篇にすぎないことは初雁本によつて知られる)。日野(烏丸)光政は文化九年(一八一二)生、安政二年当時四十四歳で権中納言、烏丸家は先祖光広が細川幽斎より宗祇流の古今伝授を受ける累代の和歌の家で、他流のさまざまな歌書をも蒐書していたものと思われる。和氣信徳は未詳、代々鷹司家の侍をつとめる家に和氣氏を見出すから、おそらくはその家の一人であろうか。鷹司政通は寛政元年(一七八九)生、当時六十七歳で関白、政通の蒐書・書写・編著活動の成果は書陵部蔵鷹司家旧蔵本として一括伝存し、活動の極めて精力的で多岐に及ぶことが知られる。その中で烏丸光政より借覧する歌書もかなりの数にのぼっているようである。

印記「鷹司城南／館図書印」「宮内省／図書印」(一丁表)

目録記載書名「金玉双義」(鷹二九)

第一類第二系

国文学研究資料館初雁文庫蔵本(初雁本)

〔江戸中期〕写 横本半一冊

該本は「古今和歌集灌頂口伝」との合写本であり、後半九丁のみが今課題の伝書の写しである。本文共紙表紙(一七・七×二四・七cm)。外題を記さない。装丁、袋綴。遊紙、前後各二葉。内題、「古今和歌集 灌頂口伝上(中・下)」、三十丁表に「金玉双義 貫之作」。但、後者は後続するいくつかの篇名の首と解される。料紙、薄様斐紙。每半葉十四、五行。字面高さ約一五cm。墨付三十九丁。前書「古今和歌集 灌頂口伝」の表記は平仮名交りを主とし、時に片仮名交りに変わる。後書、冒頭「金玉双義」で始まる、課題としている伝書の表記は片仮名交りを主とする。片仮名は漢文の訓点風に細記し、随所に返点と共に漢文的表記を残す。例歌は一首二行書の平仮名交り、ままた万葉仮名風に記す歌もある。尾題が前書のみに存する。即ち二十九丁裏に「古今和歌集灌頂下」と。

奥書等は次の通りである。先ず前書巻上の一項「古今相伝灌頂次第」の尾(十丁裏)に、

永享三年正月十四日書写早

次で前書巻下、尾題に続き、

(1) 永享三年正月十四日書写早

(2) 此本和州談山妙光院所持令書写者也

延宝三年霜月五日

(3)元禄二年六月吉日辰写之

(1)(2)は勿論(3)も本奥書と解すべきであろう。(2)の「和州談山妙光院」は大和国多武峯寺(当時天台宗、現談山神社)内の一子院(白石克氏『江戸時代の寺社境内絵図上』所載「多武峯之図」参照)と思しい。

一方、後書は細目の7「若々歌ノ重位」の項末尾(三十二丁表)に、

紀貫之在判

次で9「持統天武二人ノ中人丸頭事」の項末尾(三十四丁表)に、

永享三年正月十八日午剋書之

右筆明叡之

次で19「古今伝授次第之事」の項末尾(三十八丁裏)に、

永享三年正月十七日 未刻書之

のように記す。同様本奥書である。明叡の経歴等未詳。前後共永享三年(一四三一)正月の年記を有する点、また後書19「古今伝授次第之事」の項に伝授目録を記して「灌頂卷上中下」(即ち、灌頂口伝上中下を指すであろう)とする点から推し、両書

には当時密接な関連があつて、明叡が同年それらとともに書写した後、談山妙光院の所持するところとなつていた書写本を、延宝三年(一六七五)、元禄二年(一六八九)、該本へと累次転写を重ねたものように思われる。二書は明叡(か少くとも延宝)の段階かで合写されたと思しい。そして後書に延宝以後は何ら識語が加えられなかったのは、分量が多いが一種の付録であり、不要とされたからではあるまいか。

『初雁文庫解題目録』に解題がある。一系本書陵部C本と比すとき3・10・18・19・20の各独自項目に注意すべき点が多い。

印記「西下ノ蔵書」(一丁表)

目録記載書名「古今和歌集灌頂口伝」(12163)

第二類第一系 イ

慶応義塾大学附属研究所斯道文庫蔵本(斯道本)

〔室町後期〕写 一軸

後補朽葉色地龍虎丸紋唐花等文様繡裂表紙(二〇・三×一九cm)。古表紙の流用か、とも思われる。題簽貼付の跡あり、粗い裏打修補を施す。装丁、卷子装。見返、白緑色地銀砂子切箔散の楮紙。左下の角に「屏山文庫」の整理番号札を貼付する。

卷頭の小題は「○玉伝深秘卷 住吉口伝書」と記す。以下の諸本

と同様、屢々繰り返すが総題ではなく、冒頭の篇名と解すべきである。料紙、斐紙。一紙九行。裏面右下の角に「一」乃至

「五十二」、続いて改装時の継ぎちがいだらう逆様に「五十七」

「五十六」「五十四」の如く紙数を墨で細記する。(五十三紙は

軸に巻き、五十五紙は存せず、また廿二紙後半四行・廿三紙・

廿四紙前半三行、廿五紙後半四行・廿六紙前半四行は近時の截

取りで存せず)。横の短かい料紙も含め全五十五枚繋。墨付五

十一枚。寸法の目安を示すなら本文冒頭の一紙縦二〇・三横一

四・二cm。字面高さ約一八cm。本文は別記する通り他本と比し

項目数が少ない。平仮名交りを用いて書写され、「おほしむ」

(応身)「いむやう」(陰陽)など平仮名表記の多用が目立つ。

原本を忠実に書承する書写形態とちがひ、原拠からの項目選択

・口授・筆録という授受の一段階を踏むことがあったからか、

と推測される。本文と同時の朱墨合点、朱の振仮名・読点・濁

点等が付される。「深秘口伝集下終」という、その項の尾題、

19「中将入滅の事」以下三項への目録(細目参照)があるのは

この本のみである。内容的には、何といても「自性論」を第

一類第一系書陵部C本と共に有することが最も注目される特徴

である。その他形態的に同本に近似する点がいくつかある。

奥書はない。(09128ト)

第二類第一系 ロ

名古屋大学附属図書館神宮皇学館文庫蔵本(名大本)

正徳三年(一七一三) 狛久忠写 半一冊

格子刷毛目表紙(二四・三×一七・九cm)。外題、左肩打付

書「玉伝深秘 全」。装丁。袋綴。遊紙、前一葉。卷頭の小題

「玉伝深秘卷 注」。「注」は「住」(住吉大明神の略記)の誤

写かとも思われるが、以下いくつかの伝本に共通している。料

紙、楮紙。每半葉十行。字面高さ約二〇・四cm。墨付五十八丁。

36「阿古根浦口伝日記」前半(二十三丁表)までが歌を除き片

仮名交りで表記され、返点共漢文風の表記を多用する。それに

続く本文を平仮名交りとしている。また14「血脉年号奥書」所

引の歌を万葉仮名風に漢字を用いて表記する。本文と同時の朱

墨校・朱墨送仮名・朱墨堅点・墨振仮名・墨返点・朱引・朱合

点・朱句点を付す。また同筆で「資恒私曰」「私曰」と記して

小字の勘注を計三箇所に加える。本奥書に徴し、依拠本に存し

たものと解される。項目数も揃い本文内容にも省略が少なく第

一類本と共通項が最も多い。しかし細目に注記するように若干の誤脱も生じているらしく思われる。

本奥書は次の通りである。

(1) 応永三十四年十二月日
(一四二七)

(2) 右二条家之御本写之不可有外見者也

于時天正拾四年卯月八日
(一五八六)

(3) 右一卷正本誤多落字等多雖信用難証本之通／訊筆伴氏資恒

令書写遂校合訖

(一六九〇) 庚午
元禄三 牛龍集長月十有一日

右に続く書写奥書は次の通りである。

于時正徳三癸巳年春書写畢 狛久忠

伴資恒・狛久忠ともに未勘。後者は南都伶人の家系に属する者か。続群書類従所収本以外にも詳細な狛氏系図等伝存する由を仄聞するが他日を期する。

印記「神宮皇学／館大学／図書之印」「名古屋／大学／図書印」(一丁表)

目録記載書名「玉伝深秘」(皇911.107GO)

第二類第二系 イ

祐徳稻荷神社蔵A本(祐徳A本)

〔江戸中期〕写 大一冊

後補淡黄緑色表紙(二八・四×一九・八cm)。外題、左肩題簽「玉伝□」か。装丁、袋綴。遊紙、後一葉(冒頭部の書き損じを反転して用いる)。冒頭の小題「玉伝深秘卷 注」。料紙、薄手楮紙。每半葉十一行。字面高さ約二三・七cm。墨付全二十四。丁全文片仮名交りで記し、血脉に記す引歌は万葉仮名風の漢字表記とする。第一系口名大本の前半分に相当する伝本である。

奥書は次の通り。

肥前国須古莊陽興寺一僧瑞雲叟(花押)

河上山大蔵坊これをゆつる

宗貞(花押)

「これをゆつる」の左に傍線を摩り消した跡あり。陽興寺は龍造寺家の天正年間に創建する寺、河上山は河上神社別当寺の河上山神通寺実相院(真言宗仁和寺末)を指すと思しい。瑞雲・大蔵坊(実相院の末にこの坊名あり、その寺の僧侶だろう)。宗貞、共に未詳。瑞雲書写本を大蔵坊が所持し、それを宗貞へ譲ったの意か、あるいは宗貞が書写したの意か。本文と「宗貞」の記名の字形は似ているようでもあるが断定に至らない。

印記「直郷ノ之印」(一丁表)。直郷は鹿島鍋島家第四代、享保三年(一七一八)生、明和七年(一七七〇)没。

昭和五年刊の『祐徳文庫蔵書目録』に記載しない写本である(但、函架番号は6 22 35)。

祐徳稻荷神社蔵B本(祐徳B本)

〔江戸後期〕写 大一冊

紺色布目表紙(二六・六×一九・一cm)。外題、左肩香色斐紙題簽「玉伝深秘極密集 完」(本文と別筆)。装丁、袋綴。冒頭の小题「玉伝深秘卷 注」、題に続け朱で「○△^注」と記す。以下の本文行頭に△符○符が散点する(同様の符号は書陵部B本にもある)。料紙、楮紙。每半葉十一、二行。字面高さ約二四cm。

墨付全二十六丁。全文片仮名交りで記し、朱引を施す。血脉に記す引歌は万葉仮名風の漢字表記とする。祐徳A本に比較して、直接の書写関係にはないだろうがよく似ている。ただ祐徳A本の、16〔御手洗川之事〕・17〔次業平人丸之哥末読ト云事〕・18〔次齊宮段〕・19〔月哉不有之事〕前半、までが祐徳B本に欠脱するのは顕著な差である。

裏表紙見返に次の奥書あり。

(1) 右深秘之奥義努々他見ノ不許可極秘也

(2) 右借荻原氏後素軒之本命左右写之早

丙辰
季夏四日 孟機(花押)

(1)は本文同筆(2)別筆、題簽に同じ。「荻原氏後素軒」「孟機」ともに未詳。「丙辰」は元文元年(一七三六)、寛政八年(一七九六)、安政三年(一八五六)などが考えられる。字形等から判断する限りではおそらく寛政八年であろう。但、「直郷」印も捺されており、生前のものとする元文元年である。

印記「中川ノ文庫」「直郷ノ之印」(一丁表)

目録記載書名「玉伝極秘極密集」(6 22 249)

第二類第二系 口

水府明徳会彰考館文庫蔵A本(彰考館A本)

元禄十二年(一六九九)小野沢助之進写 大一冊

雲母入淡茶色表紙(二八・九×二一・一cm)。外題、左肩打付書「玉伝深秘 副」(別筆)。装丁、袋綴。冒頭の小題「玉伝深秘卷注」。料紙、薄様斐紙。每半葉九行。字面高さ約一九・七cm。墨付六十四丁。本文は原則的に平仮名交りを用い、血脉所載の歌は万葉仮名風に漢字表記する。稀に朱訂・朱校がある。

38 「金札伝」末尾に「玉伝終」、53 「古今集物名抄（仮題）」の末尾に「玉伝集終」と尾題を認め、それに続き奥書の前には「善観 莊 敵 厚薄 浅深 問答」としるす。

裏表紙見返に紙片を貼付し、次の通り書写奥書を添えている。

右玉伝深秘耄冊元禄己卯冬小野沢／助之進得之京師写原本花山入道定誠

公蔵
所蔵也

「花山入道定誠公」は花山院定誠、寛永十七年（一六四〇）生、貞享元年任内大臣、同三年辞任。元禄五年入道、宝永元年（一七〇四）薨、六十五歳。小野沢助之進は彰考館員であろうが未勘。

印記「彰考館」（瓢形、一丁表）

目録記載書名「玉伝深秘」（巳拾八 07510）

曼殊院蔵本（曼殊院本）

写 大一冊

該本は原本未見、最近刊行の「曼殊院蔵古今伝授資料Ⅱ」（平成三年汲古書院）に所載する影印本と同解題によりつつ概略を記すこととする。尚同解題を参照されたい。渋茶色表紙（三〇・九×二二・五cm）。装丁、袋綴。外題、左肩打付書「玉伝

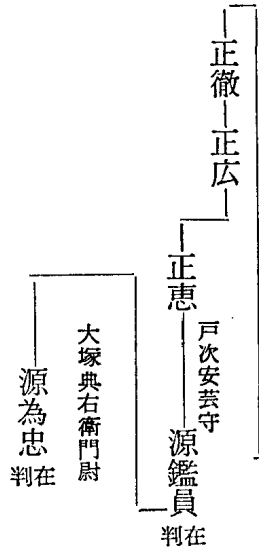
深秘卷」。冒頭の小題「玉伝深秘卷」注。每半葉十二行。墨付全四十四丁。歌に朱カの合点あり。他に「朱書、朱引、合点、丸印、句読点、返点、送り仮名、振り漢字、補入記号等がある。朱墨の濁点も付けられている」（解題）。本文は平仮名交りであるし、血脉に引く歌は万葉仮名風の漢字表記を用いている。但、問題は55「奥義抄下卷余 問答 抜粹」と仮題を付した部分以下、丁を改めた上での片仮名交り表記とする諸項である。これまでとすべて同筆ではあるが、形態上明白な断絶がある上、これ以下を持たぬ伝本も多く、形態的に最も近い彰考館A本も持たないので、いずれかの段階で後記第三系口本類似の他本から補記されたと思すべきだろう。同じく13「内道論」の欄外補記（他系の前半部相当）・37「三河ノ八橋ト云事」等も第三系口本類似の他本に拠ったと思しき小字の補入箇所である。これ以外にも原拠は不明だが血脉の人丸歌と、50「和歌淵底秘抄」の一項「対言歌体」の行間に記す数行の小字補記も存している。以上は複数の他本を以って対校した結果であろう。但、余白の利便でなしに、補入箇所にも十分な行間をとるなどの形から見て、該本依拠本が既にこの形態下にあったと思しい。順が逆になるが38「金札伝」末尾に「玉伝終」、54「古今集物名抄（仮題）」

の末尾に「玉伝集終」と尾題を認め、続いて「善観 云々」と記すのは彰考館A本に同じ。ここまでが主要部である。続く増補部、併せて奥書も第三系ロ本同様片仮名交りであるから、奥書は途中から補入された他本の本奥書と解され、主要部分に及ばないであろう。この点同解題と少しく見解を異にする。

その奥書は次の通り(書写奥書はない)。

右玉伝深秘本来無双之儀也定家卿斯道之達／者住吉明神依化現再舌之玉フ・故近代之哥ヲ有／加之・又余古説之不好処除モ多当時之正風無不審／者也可用可仰深秘之密々無此上不可有他見者／也・穴賢々々

○皇太后宮大夫俊成—定家—為頭—



正広は正徹の歌学の資、招月庵を継ぐ。正恵以下は未詳。

第二類第三系 イ

神宮文庫蔵本(神宮本)

〔江戸初〕写 大一冊

濃紺表紙(二八×一九・六cm)。外題、中央左寄後補打付書「玉伝深秘」、左肩後補題簽「玉伝深秘」。この順で付されたものか。装丁、袋綴。遊紙、前後各一葉。冒頭小題「玉伝深秘卷」。料紙、薄手楮紙。每半葉十行。字面高さ約二一・一cm。墨付百丁。本文は平仮名交りを用いる。特に血脉所引の和歌をも平仮名交りで行すのは他本と異なる独自の特徴である。漢語(例えば「任運」「涅槃」など)を平仮名表記とする傾向も著しい。口授を経過するものか。52「古今集物名抄(仮題)」の末に頼阿の「おもふともしはしはいはじよそなからなるゝほうとくならもこそせめ(統草庵集三四五)」を引くのはきわめて特徴的である。また、前記するように一系・二系本と比し項目順を僅かに動かし、一方奥義抄より大量の増補がある。34「金札伝」末尾に「玉伝終」と尾題を記す。

奥書を加えない。

印記「林崎／文庫」「林崎文庫」(一丁表)。「天明四年甲辰八月吉旦奉納／皇太神宮林崎文庫以期不朽／京都勤思堂村井古巖敬義拜」(末丁裏)。即ち、伊勢内宮の講学のある林崎文庫

に、村井敬義（古巖・勤思堂）の奉納する二千部中の一冊である。

目録記載書名「玉伝深秘」（3159特）

第二類第三系　　ロ

水府明德会彰考館文庫蔵B本（彰考館B本）

〔江戸中期〕写　大一冊

淡茶色表紙（二七・七×一九・九cm）。外題、左肩本文別筆打付書「玉伝深秘 全」。装丁、袋綴。遊紙、前一葉。巻頭の小題は「玉伝深秘巻」と記す。料紙、薄様斐紙。每半葉九行。

字面高さ約一九・九cm。墨付六十八丁。本文は片仮名交り表記を用い、あまり厳格ではないものの助辞を細記する片仮名宣命書き風の特徴を有している。血脉所掲歌は概ね万葉仮名風の漢字表記である。同様、助辞を時に片仮名平仮名を交えながら小字でしるす宣命体の形式をとる。巻末の52「和歌九品次方」53「十体次第」では、例歌の二、三句のみ示して以下略符を付す。朱傍線・朱記が稀に存する。前記の三系本に共通する特徴の他、25項は次のように記すのみで次項に移る。「伊勢物語百三十段異名アリ近年不用条是ヲ不書」。

本奥書は次の通りである（書写奥書はない）。

右玉伝深秘之巻本来無双之秘書也定ノ家卿此道之達者即住吉明神再活故近ノ代之哥有加之又余舌説不始処除多当ノ時之正風無不審者也可用可仰深秘之ノ密書無為此上者不可有他見穴賢、

积正徹

皇太后宮太夫俊成　定家　為家　為頭ノ正徹　正広　正恵

戸次安芸守

源鑑員

摂津大和守

親安

正恵以下未詳。以上の奥書に続き、「柿本人丸云々」（二丁半）乃至「神無月云々」（三行）の追記二条がある。

印記「潜龍ノ閣蔵ノ書記」（二丁表）。徳川斉昭の蔵印である。

目録記載書名「玉伝深秘」（巳拾八　07509）

宮内庁書陵部蔵A本（書陵部A本）

嘉永六年（一八五三）〔鷹司政通〕写　枳形本一帖

日野（烏丸）光政所持本の写

該本は虫損が甚しく閲覧停止中である。ポジフィルムによって判断し得る限りの概略を記せば、表紙は政通通用の紺色地金

色菱形刷毛目表紙（一六・六×一六・七cm）と推測される。装丁、綴葉装。外題、中央打付書「玉伝深秘卷」、その傍らに普通の花押がある。巻頭の小題は「玉伝深秘卷」。墨付五十二丁。本文は片仮名交りで記し、血脉所掲歌を万葉仮名風に漢字のみを以て記す。歌に朱筆と思われる合点があり、全般に朱カの異校、欄上に勘注等が散見される。25項は彰考館B本に同じ。

本奥書は次の通り。

右玉伝深秘之卷本来無双之秘書也定家ノ卿此道之達者即住吉明神再活故近代ノ之哥有加之又余古説不始処除多当時ノ之正風無不審者也可用可仰深秘之ノ密書無為此上者不可有他見穴賢々々

積正徹

●皇太后宮大夫俊成—定家—為家—為顯—

正徹—正広—正恵

戸沢安芸守

源鑑員

梅津撰津守

親安

後持主 沙門空改判

空改は未詳。次で書写奥書は次の通りである。

日野黄門光政卿より許借写早

嘉永六年六月日 (花押)

印記「宮内省ノ図書印」(一丁表)

目録記載書名「玉伝深秘卷」(二六六・二七七)

宮内庁書陵部蔵B本(書陵部B本)

〔江戸後期〕写 大一冊

香色地空押七宝雷文崩雷文繫襷文様表紙(二七・一×一九・一cm)。外題、左肩布目短冊題簽「玉伝深秘卷 住吉作」。また表紙右下に「真海法印」と本文と別筆の墨書あり。装丁、袋綴。巻頭の小題は「玉伝深秘卷」と。料紙、楮紙。每半葉九行。字面高さ約二〇・六cm。墨付四十一丁。本文は片仮名交りで記し、稀に助辞を小字表記する。血脉に引く歌は万葉仮名風に漢字のみを用いている。漢字の殆ど全てに振仮名を付すのは他本と異なる一大特徴である。祐徳B本に似て哥に朱〇符、注本文に朱△符を付す他に、朱引・朱読点・朱堅点・墨返点・墨異校等が存している。また冒頭の「玉伝深秘卷」の項には欄上に「ア」「バン」「カ」の梵字を朱書する。欄上には一箇所「文隆曰変ノ字ハ誤ナランヤ当作恋字カ」の別筆書入れもある。文隆は未詳。11「無何有里事」は他本に比し簡略化され「別紙相伝有リ」

と付記される。23「非月哉」も本文を記さず「別紙口伝」とするのみである。そればかりか片桐氏も言及されるように項目の脱落もすこぶる多く、本文は良好な状態にない。

奥書は次の通りである。

右玉伝深秘之巻本来無双之秘書也／定家卿此道之達者即住吉明神再活／故近代之哥有加之又余古説不始処除／多當時之正風無不審者也可用可仰／深秘之密書無為此上者不可有他見／穴賢云

皇太后宮太夫俊成定家 為家 為顯／正徹 正広 正恵 源

安芸守 撰津大和守
鑑員 親安

真海法印

「海」字を胡粉で塗抹し、「慶」と訂する。字形・墨色とも近似するものの、本文並びに「親安」までの手跡とは別筆と思し、表紙の「真海法印」の打付書と同筆であろうか。不審なのは片方だけが「海」を「慶」と直す点である。真慶（海）は未詳。

印記「図書／寮印」（二丁表）

目録記載書名「玉伝深秘巻」（伏二五四）

小題細目

以上の十二本の篇名を列挙する。所収項目を一目瞭然に示すと同時に、表と連係させて項目の出入りを詳細かつ具体的に表わす趣意である。伝本によって篇名のない項目もあり、従って切れ目が不明な場合もままあるが、他本によりつつ便宜区分を行い同時に篇名も与えた。題に付した番号は各本内での通し番号、番号を振らない行は、本来の小さな草子の内・外・尾題、目録等の痕跡と思われるものである。なお、その際同本他所或は他本からの補いは「」内に、筆者の考案する仮題は「（仮題）」内に記す。内容があまりに簡略化されている場合も他本によって補わず、仮題を用いた。また随時本文の長短・脱落の有無等を（）内に、例えば（首欠）―冒頭部欠落―等と注記することもある。加えて、上記の解題を補うために、古い段階に付されていたと思われる、伝承的な奥書（但、オクノシヨと読むべきときは除外）と、いくつかの血脉とはそのまま記載することとした。

細目

第一類第一系

宮内庁書陵部蔵C本(書陵部C本)

- 1 金玉双義
- 2 自性論 灌頂 人丸赤人事
- 3 四人人丸事
- 4 合身義
- 5 三公伝始書 身足翁義 住経
- 6 人丸ノ名字事
- 7 「古今」二字秘事ノ義
- 8 古今二十卷異名
- 9 燧深義 住
- 10 水体事
- 11 「二人秘名」
- 12 金札伝 住 経信告
- 13 ホノノト 「の歌の事(仮題)」
- 14 人丸秘哥
- 15 五人死所事

16 千葉破深義

17 大明神義 夢延光中納言

18 「血脉次第」

中納言藤原延光—右大臣源俊高—為家

為氏

為頭—能基—快承—寿王丸

19 玉伝深秘卷 住吉

20 三十一字 文字極事

21 三十一神

22 土句、三種深義

23 奥善云喜歌(マ)

此者住吉大明神ノ御作也天安元年正月廿八日在五中将授之
 /給在五中将奉進大神宮、自大神宮奉送延喜聖帝云々/今此
 玉伝者高貴大明神從授在中將以来一条家之重/宝也不及他
 家秘伝也依宿習最深得聞此奥義而已

24 九章密伝 住

25 「九章密伝奥伝(仮題)」

26 血脉年号奥書代ト秘歌

住吉大明神 夜野寒衣哉薄片言木之行合野前介霜/哉置覽本

壽々登明石野浦野朝霧尔嶋隱行船於四曾／思

天安元年正月廿八日 伝授 住吉

業平 思事不言只尔曾息奴辺気我登等紫気人之無／礼波

天武天皇大沢野池野草於吹野気天心之任月於／宿讚布

聖武天皇龍田河紅葉乱天流女里渡波錦中哉絶南

天照大神青柳之糸打波江天鶯野縫天宇筥波梅之花笠

貞観十三年六月四日 業平

醍醐天皇富士之根波何毛不絶晚煙不断思余里立始气里

延喜三年十一月十三日 大神

貫之棧散留木之下風波冷加良天曾良尔不知雪曾雨气留

延喜十九年七月十八日 天皇

時文 暮作礼波月待櫻野徊尔同高峯尔鳴本登卜气寸

順 阿紫路木尔賀天阿良留 錦何日積礼留モミチ南留良布

天曆三年六月一日

長家 山高見春登毛不見雪雨天道行人野袖寒良布

天曆三年十二月十三日 順

経信長家養子住野江の松於秋風吹加良尔下枝於阿良宇奥津白南見

長徳元年十一月十三日 長家

俊頼 伊作宵野月之光尔作曾波礼天何登毛不知宿紫天之加

元曆元年七月十八日 経信

俊成 千葉破留平野々松野枝紫気見千代尔称千代尔色加波

元久元年九月廿八日 俊頼 留良紫

定家 玉由良久露毛涙毛不逗無人恋留宿之秋風

承久二年十一月一日 俊成

為家 弊多寸木懸天曾憑会日草今日之御杖野神野紫留紫於

建長元年十月三日 定家

為顯 鹿嶋秋野夕野真葛原裏見天野見曾露波古保留

文永十年三月十三日 為家

能基弘安元年 十二月十一日 明覚

快所弘安十年 七月廿五日 能基

寿王丸永仁七年 四月十日 快所

27 古今和歌師資相伝血脉譜

住吉大明神*

文徳天皇天安元年正月廿八日住吉行幸之時業平朝臣／

賜玉伝阿古根、浦仍古今此ニ始ル

木工権頭兼春宮大夫正三位上行柿下朝臣人丸*

有秘事人丸者住吉大明神化身也人丸生改テ生業平

生カヘテ生貫之ト云

正四位上行左近衛中將在原朝臣業平*

平城天皇 阿保親王五男母桓武天皇第八姬

伊豆内親王也 天安元年正月廿八日伝受

伊勢豊受天照大神*

貞觀十三年六月十一日業平大神宮奉玉伝古今義也

醍醐天皇 延喜帝此也宇多天皇太子*

延喜三年三月十二日粟田中納言藤原兼隆奉大神宮兼隆

夢中錦卷物自大神宮賜見ト夢覺見在ト卷物開不レ開玉伝

此也奉章王ト此歌大秘也自此事ト信ト此道ト古今集給ト云

從四位下行木工頭紀朝臣貫之*

和泉守紀文幹孫卷岐守紀良宗定一二男

正五位下行紀朝臣友則

甲斐少目几河内躬恒

右衛門付生王生忠峯本

從五位上行大炊權助兼伊勢守紀時文貫之一男*

大内記紀信之時文一男*

大内記兼大和權守坂上是則*

左京權大夫源朝臣家朝*

治部卿中納言從三位上行藤原基俊

從五位上行能登守源朝臣順

大納言昇二男致孫也嵯峨天皇後胤

民部卿正二位大納言藤原朝臣長家*

三条殿御堂閔白大政大臣道長末男

民部卿正二位大納言源朝臣經信*

就実親王後胤中納言道方男 長家為子仍伝之

正四位下行木工權頭兼修理亮源朝臣俊頼經信男*

從三位皇太后宮大夫藤原朝臣俊成*

長家後胤中納言俊忠男俊頼為第子ト伝之

正三位權中納言藤原朝臣定家 俊成四男*

民部卿正二位大納言藤原朝臣為家 定家一男*

正二位權大納言藤原朝臣氏為家一男

從五位上行左近衛少將藤原為世為氏一男

從五位上侍從兼美濃權介藤原朝臣為顯*

為家五男 文永十年三月十三日 出家

法名明覚房往東国

阿闍梨金剛仏子能基*

於東京受之御堂関白後胤侍從藤原朝臣能本マ□
 / 孫治部権少輔兼肥後守朝基五男也住伊勢国
 僧快承^{*18}^{*19}

弘安十年七月廿五日 受之

寿王麿 永仁七年四月十日 伝受也

(原本に於ては相關的系譜を繋線を以て図示するが、
 印刷上* 簽符を用いて略記した。以下も同様である)

伊勢物語 云事 二字義

28 〔伊勢物語 云事〕

29 二字義 齋宮段古今同 龍田河古今同

30 〔大原大神の事(仮題)〕

深秘口伝集 上此中^ニ六

(目録) 龍田河事・御手洗河事・業平人丸哥末^ヲ読事・齋宮
 段・月ヤアラス事・陽成院事

31 〔龍田河事〕

32 〔陽成院事〕

33 〔御手洗河事〕

34 〔業平人丸哥末^ヲ読事〕

35 齋宮段

36 〔月ヤアラス事〕

深秘口伝集下此中^ニ七

(目録) 人麿三所墓事・小野小町時代不同事・仁和中将二義
 事・無何有里義事・月神日神事・ミスモアラス事

37 〔人麿三所墓事〕

38 〔仁和中将二義事〕

39 小野小町カ事

40 無何有里^ト云事

41 〔月神日神事〕

42 〔ミスモアラス事〕

口中深存義并内道論 滋春

43 〔口中深存義〕

44 十二人ノ化身事 住吉示経信

45 内道論 定家

昔義并星宮口伝

46 〔昔義〕

47 星宮口伝

48 阿古根浦口伝之日記

49 阿古根浦口伝

50 奥書 業平作

非月哉 并絶入

51 〔非月哉〕

52 七月七日絶入事

三河義 女隱名

53 〔三河義〕

54 会合女事／隱名

55 中將入滅記 滋春作

56 物語次第

57 伊勢物語百二十段異名

58 物語五種異名

59 交會女合始 月日事

60 伊勢物語師資相承血脉譜

彦波飯武尊也天武天皇御宇 石見国出現号

人丸 聖武御宇改名号赤人清和御宇天長二年

住吉大明神 生シテ号業平 云三人一体化現也

正四位上行左近衛中將在原朝臣業平

平城天皇 孫阿保親王 五男母伊豆内親王也天安元年／正

月廿八日文德天皇住吉行幸 時自大明神賜玉阿二書和謂為

眼目

從四位下行右近衛權少將在原朝臣滋春*

業平 二男母染殿内侍元慶四年三月十一日伝受

正四位下行左中弁在原朝臣元方*

業平孫左衛門權佐棟梁一男自伯父伝之仁和四年九月

十三日伝受

正四位下行右大弁在原朝臣元清非哥人*

元方舍弟齊漸三年八月廿三日伝之

從四位上行民部卿在原朝臣惟純*

元清一男寬平元年正月三日伝之

從五位上行左中弁在原朝臣業正*

元清四男自兄伝受寬平二年六月六日伝受

從五位下行伯耆權守兼右馬權助在原朝臣宗屋*

業正五男昌泰元年十一月廿九日伝授

正四位上行民部權大輔在原朝臣朝之*

宗屋四男延彦三年八月一日伝受

正四位下行朝之一男後一条院御時 朝臣公之*

朝之一男後一条院御時依大神宮御託宣改姓号 高防泰仲

刃古延彦五年八月三日伝受

從三位高階朝臣見国*

公之四男中納言藤原俊忠為子改姓号藤原／元曆元年正月

十三日伝受

從三位兵部卿權中納言藤原朝臣俊忠^{*11}

御堂関白大政大臣道長後胤三条民下卿大納言長家／家孫

三条大納言忠家二男号冷泉中納言依見国為子^ニ伝之

元曆二年十二月廿九日伝之

從三位皇太后宮大夫藤原朝臣俊成^{*12}

俊忠三男文治四年六月十三日伝受

從三位權中納言兼石見守藤原朝臣定家^{*13}

俊成四男承久元年八月十三日伝受

正二位民部卿大納言藤原朝臣為家^{*14}

定家一男承久三年七月十三日伝受

正二位侍從大納言藤原朝臣為氏^{*15}

為家一男 文永元年正月八日伝受

從四位下行右近衛少将藤原朝臣為世^{*15}

從五位下行侍從兼美濃權介藤原為顯^{*14}

為家五男 文永四年五月十一日伝受

文永十年三月十三日出家法名明覚住東国

金剛仏子阿闍梨能基

弘安元年十二月廿八日於伊豆山^ニ伝受

御堂関白後胤中山中納言基俊末葉／侍從兼治下權少輔能

清孫治下權少輔／兼肥前守藤原朝臣朝基五男伊豆山／密

敝院法印覚玄弟子也

僧快承

弘安十年七月廿五日伝授之

寿王曆 永仁七年四月十日伝受之

61 伊勢物語要文哥集

62 〔和歌大綱〕カ

63 〔和歌淵底秘抄〕

64 題哥書様

65 題切紙同書様

66 和歌伝受灌頂私記 経信 始奉授堀河院次第也

67 伊勢物語口伝并注^(一)

68 伊勢物語口伝二并注

69 伊勢物語口伝三并注

70 伊勢物語口伝四并哥^五

71 伊勢物語口伝六^六入違多^六

72 伊勢物語口伝七^七

73 伊勢物語口伝七歌八并注

第一類第二系

国文学研究資料館初雁文庫蔵本(初雁本)

1 金玉双義 貫之作

右紀貫之作也

2 身ミタリ足翁義号ス三六伝ト

3 阿波路ノ国ノ口伝

4 渡津ハタツ姫メ〔の事(仮題)〕

5 寿々ホクホク都ト赤石浦ノ哥カ事ノ深義ロイ

6 我見天モク久ク成ス住吉ノ哥ノ事

7 若々哥ノ重位

紀貫之在判

8 和哥ノ浦ニ〔の哥の事(仮題)〕

9 持統文武二人ノ中ニ人丸ヲ願ス事

10 古今伝受加行次第 日教如密宗

11 玉伝深秘卷 住吉大明神

12 三十一文字文字極事

13 三十一神

14 土ノ句三種ノ深義

15 奥書曰

此者住吉大明神御作也天安元年正月廿八日ノ在五中将ノ授

之給在五中将ノ奉進ニ太神宮ノ奉送延喜ノ聖帝ニ云云

16 阿古根浦ノ口伝

17 奥書 業平作

18 奥書曰

此住吉明神御作也名字多也須久不可云也ノ就中五季ノ口

伝卅一社ノ口伝持々深秘也此条々ノ更々余流不可有之者

也唯授一人ニ取秘也ノ可秘々

右以起請文可伝之道場庄蔵

置物等者灌頂卷自所記可超ニ過ニ云云

19 古今伝授次第之事

20 八雲立〔の歌の事(仮題)〕

第二類第一系 イ

慶応義塾大学附属研究所斯道文庫蔵本(斯道本)

1 玉伝深秘卷 住吉口伝書

2 三十一字に文字きはまる事

3 三十一神

4 土句之三種本ノママ義

5 おくかきにいはいく

是ハ住吉の大明神の御作天安元年正月廿八日在五中将に
是をさつけたまふ在五中将ノ大神宮ハしむはう大神宮より
延吉のしやうノていにをくり奉らるゝと云

6 おく書にいはいく

今此玉伝者高賞イ敷大明神在五中将にさつけたまひしより此
かた二条の家本ノママのてうはう也外見ノに及へからざる秘伝なり
和哥に宿しうある者ノハ。其儀なきなり此口伝をきくうすき者ハ
の次に入る補
入記号あり（以上の小字ある者は）

昔の義イマシ再星宮の口伝

7 「昔の義」

8 星宮の口伝

9 阿古根アコネ浦、口伝之日記

深秘口伝集上

（目録）龍田川の事・みたらし河の事・業平人丸の哥のすゑ
をつく事・齋宮の段の事・陽成院の事

10 「龍田川の事」

（截取り）

11 齋宮の段の事

12 「月哉ヤアラヌ不有事」（目録になし）

深秘口伝集下

（目録）人丸三所の墓事・仁和中将二義事・小野小町時代不
同事・無何有の里の義事・月神日神之事・みすもあらずの事

13 「人丸三所の墓事」

14 「仁和中将二義事」

15 「小野小町時代不同事」

16 無何有里フガユリと云事

17 「月神日神之事」

18 「みすもあらずの事」

深秘口伝集下終（尾題）

（目録）中将入滅記しけ春か作・自性論人丸赤人の事・人丸四名
義

19 中将入滅の事（截取り有り）

20 自性論灌頂

21 四人々丸事

22 秘説在「る歌（仮題）」

23 在口口秘哥

第二類第一系 口

名古屋大学附属図書館神宮皇字館文庫蔵本(名大本)

1 玉伝深秘卷 注

2 「三十一字 文字極事」

3 三十一神

4 土ノ句ノ三種ノ深義

5 奥書云

右玉伝者住吉大明神之御作也天安元年正月廿八日/在中将
是ヲ授給業平奉進_ニ大神宮_ニ大神宮ヨリ/延喜ノ御門奉進
ト云々

6 奥書云

今此玉伝者高貴大明神在中将授給業平伊勢太ノ神宮 授奉ル
大神宮ヨリ延喜帝授給ヘリソレヨリ/以来二条家之重宝トメ
他家ヲヨホサ、ル秘伝ナリ/宿習取深ヨテ此奥義得タリト云々

7 玉伝深義口决 業平作

天安元年二月五日 業平記之

8 七歌鳥風問答記 大納言源経信記

9 阿古根浦口伝

10 奥書 業平作

11 奥書云

今此阿古根浦ノ口伝者高貴大明神在中将 授給ヒシ(以下欠)

12 「大明神義」(欠前半)

13 血脉次第

中納言藤原延光右大臣俊高大納言藤原定家ノ大納言藤原為
家侍従為頭権律師神垂

14 血脉年号奥書

住吉大明神

夜野寒衣 哉薄片曾木行合野前余霜哉置覽
寿々登明石浦野朝霧尔嶋陰行船於四曾思不

業平 天安元年正月廿八日伝授 住吉 亞

思事不言唯尔曾息奴辺気我等紫人之無氣礼波

天武天皇

大沢野池水草於吹野気天心之任月於宿讚南

聖武天皇

龍田河紅葉乱天流女里渡波錦中哉絶南

天照太神

青柳之糸打波江天鷲野縫天宇笠波梅之花笠

貞觀十三年六月四日 業平在判

醍醐天皇

富士之根波何毛不類晚煙思余里之天立始氣里

貫之

桜散留木下風波冷賀良天曾良尔不知雪曾雨氣留

時文

暮作礼波月待程野佃尔同高峯尔鳴本登戸氣寸

順

阿紫路木尔賀氣天阿良江留唐錦何日積留換成良之

天曆二年六月日

長家

山高見春登毛不見雪雨天道行人能袖寒良之

天曆二年十二月廿三日 順在判

經信長家子 住野江之松於秋風吹加良仁下枝於阿良宇與

津白南見

長德元年十一月十三日 長家在判

俊賴 伊作宵野月之光尔作曾波礼天何登毛不知宿

紫天之毛

天曆元年七月十八日 經信在判

俊成

千葉破留平野尔松野枝紫氣見千代尔哉千代
尔色賀波留良紫

元久元年九月十八日 俊賴在判

定家

玉由良野露毛涙毛不返無人恋留宿之秋風

承久二年十一月一日 俊成在判

為家

弊多寸木懸天曾頼合日草今日之御稜野神野
紫留紫於

建長元年十月三日 定家在判

為顯

鹿之鳴秋之夕野真葛原裏見天野見曾露波落

文永十年三月三日 為家在判

神垂

天津空晴天毛不留賀富士之根野雲余里上尔
見由留白雪

弘安元年十二月十一日 明寬在判

性即

新音緒波和賀待毛野於郭公難登賀雲井野外
尔鳴覽

嘉曆三年正月十八日 神垂在判

15 口中深在義

16 十二人之化身事住吉大明神經信卿示給ト云々

17 内道論

深秘口伝集上

- (目録) 龍田河事・御手洗河事・業平人丸之哥ノスエ末読事・齋宮之段・月哉ヤアラ不有事・陽成院御事
- 18 「龍田河事」
(欠「御手洗河事」)
- 19 業平人丸ノ調ノ末ヲ読ト云事
- 20 齋宮段
- 21 「月哉ヤアラ不有事」
- 22 「陽成院御事」
深秘口伝集下
- (目録) 人丸三所之墓ノ事・仁和中将ニ義事・小野小町時代
不同事・無何有ムカウノサト里事・日神月神之事・不ミスモ見不アラ有ス事
- 23 人丸三所ノ墓
- 24 (仁和中将ニ義事)
- 25 小野小町事
- 26 無何有ムカウノサトノ里ト云事
- 27 「日神月神之事」(欠後半)
- 28 「不ミスモ見不アラ有ス事」
- 29 伊勢ノ二字ノ義(書陵部C本「伊勢物語」云事)「二字義」
- 30 「大原大神の事(仮題)」
- 31 「伊勢物語百二十段異名」(欠前半)
- 32 物語五種異名イミヤツ
- 33 交会女合始メ月日事
昔之義并星ノ宮ノ口伝
- 34 「昔之義」
- 35 星ノ宮ノ口伝
- 36 阿古根浦口伝日記
- 37 中将入滅記
- 38 古今二字秘密義(欠後半)
- 39 「金玉双義」(欠前半)
- 40 身ミ足タリ翁キナ儀ナ号ヤ三公伝 住縁(イマ)
- 41 燧トビ深義 住吉
- 42 水体事
- 43 二人秘名
(欠「古今二十卷秘名」)
- 44 物名譚深秘口伝記之并台類事
- 45 三河儀ミカハ
- 46 交会カウクワイ女メ事付カクレ隱名

47 金札伝 住吉大明神 告_レ経信卿_一

48 保濃_ノと_レ〔の歌の事(仮題)〕

49 人丸秘哥

50 〔非月哉〕

51 七月七日絶入の事

52 千葉破深儀

53 五人死所事并本地

54 人丸出所縁起 上家

55 赤人出所縁起 上家

56 赤人の縁記以前雖_レ写_ニ上家本_一重而書_レ之下家

四名儀并人丸を崇大内竹壺事

57 〔四名儀〕

58 人丸大内の竹壺に崇_ラらる_ル事

59 合身義 (欠後半)

60 〔和歌淵底秘抄〕(首欠)

61 題哥書様

62 題切紙同書やう

63 和謔伝授灌頂私記 経信卿作

64 九章 蜜伝_{ミツツク}

第二類第二系 イ

祐徳稻荷神社蔵A本(祐徳A本)

1 王伝深秘卷 _(イ)注

2 抑歌_ニ文字ヲ定ル事

3 〔三十一神〕

4 土ノ句_ニ三種之深義アリ

5 〔奥書〕

玉伝者住吉大明神之御作也天安元年正月廿八日/在中将_ニ是ヲ授玉_ニ業平奉進太神宮_ニヨリ延喜御門_ニ奉進_ト云々

今此玉伝高貴大明神在中将_ニ授給_ニ業平伊勢/大神宮奉授大

神宮_{ヨリ}延喜授給_シヨリ以来_ニ一条家之重宝_トシテ他家_ニ不及

秘伝也宿/習最深シテ此奥義ヲ聞給タリト云

6 〔玉伝深義口决〕

7 七哥鳥風問答記 大納言源経信記

8 阿古根浦口伝

9 〔大明神義〕

10 血脉次第

中納言藤原延光 右大臣俊高 大納言藤原定家/大納言藤

原為家 侍従_ノ為顯 権律師神乘

奥書

住吉大明神夜野寒衣。薄片曾木之行合前尔霜哉置覽

天安元年甲戌二月廿八日伝受 住吉亞

人丸(人名は欄上に記す、以同下し) 寿々登明石野浦野朝霧尔嶋陰行舟於紫曾思

思事不言只尔曾息怒刃気我登等此気人之無気礼波

天武天皇 大沢野池野水草於吹野気天心之任 月於宿讚南

天照大神 青柳野糸打波江天鶯野縫天宇笠波梅之花笠

貞観十三年戊寅六月四日 業平在判

六十代 醍醐天皇 富士之根波何毛不断脱煙何成世余里立始 氣無

貫之 桜散木下風波寒賀良天空尔不知雪曾雨氣留

時文 暮作礼波月待程野個尔同高根尔鳴本登々氣寸

順 阿此路木尔賀気天阿良江留唐錦何日積 留樓雨 良之

天歴三年六月一日 時文在判

長家 山高見春登毛不見雪雨天道行人野袖寒良之

天歴三年十二月廿三日 順在判

經信 住吉野松於秋風吹賀良尔下枝於阿良宇奥津白浪

長徳元年十一月十三日 長家在判

俊頼 伊佐宵野月之光尔作曾波礼天何登毛不知旅臥紫天之毛賀

天歴元年七月十八日 經信在判

俊成 千葉破留平野々松野枝紫氣見千代尔哉々尔色賀波留良紫

定家 元久元年二月十八日 俊頼在判

定家 玉由良野露毛涙毛不遷無人恋留宿之秋風

元久二年十一月一日 俊成在判

為家 弊多寸木懸天曾憑合日草今日之御枝野神野紫留紫於

建久元年十月三日 定家在判

為顯 鹿鳴秋野夕野々真葛原裏見天野見曾露波落奴留

文永十年十月三日 為家在判

神乘 天津空晴天毛不留賀富士野根野雲余里上尔見留白雪

弘安元年十一月十一日 為顯在判明覺トモアリ

明覺 新奇利仁波和賀待毛野於時鳥難登賀雲井野外尔鳴覽

寿歴三年正月十八日 神乘在判

12 口中深存義 滋

13 十二人之化身之事

14 内道論

〔深秘口伝集上〕

(目錄) 龍田河之事・御手洗川之事・齊宮之段・業平人丸末

読哥事・月哉不有之事・陽成院事

15 第一 竜田河之事

16 〔御手流之事〕

17 次業平人丸之哥末読ト云事

18 次齊宮段

19 次〔月哉不有之事〕

20 〔陽成院事〕

〔深秘口伝集下〕

〔目錄〕人丸三所墓之事・仁和中將二義事・小野小町時代

事不同・無何有里之事・月神日神之事・不見不有事

21 第一人丸三所墓之事

22 〔仁和中將二義事〕

23 〔小野小町時代事不同〕

24 〔無何有里之事〕

25 〔月神日神之事〕

26 〔不見不有事〕

27 〔伊勢物語ト云事〕

28 〔伊勢二字義〕

29 伊勢物語百廿段之異名

30 物語五種之異名

昔男并星宮之口伝之事

31 昔男

32 星宮之口伝之事

33 阿古根ノ浦之口伝之事

34 中將入滅記之事

35 古今之二字秘密之事

36 和謔二字深義 又云金玉双ノ義

37 三河深義

祐徳稻荷神社蔵B本（祐徳B本）

1 玉伝深秘卷 注

2 抑歌 文字ヲ定ル事

3 〔三十一神〕

4 土ノ句 三種之深義アリ

5 〔奥書〕

玉伝者 住吉大明神之御作也天安元年正月ノ廿八日在中將
是ヲ授玉ヲ業平奉進大神宮ノ々々ヨリ 延喜御門 奉進ト々々
今此玉伝高貴大明神在中將 授給フ業平ノ伊勢大神宮奉授大
神宮ヨリノ延喜 授給シ以来二条家之重宝トシテ他家 不及
秘伝也ノ宿習取深シテ此奥義ヲ聞給タリト云々

6 〔玉伝深義ツクシ口決〕

7 七哥鳥風ノ問答記 大納言源経信記

8 阿古根浦口伝

9 〔大明神義〕

10 血脉次第

中納言藤原延光―右大臣俊高／大納言藤原定家―大納言藤

原為家／侍從藤原為顯―權律師神乘

11 奥書

住吉大明神夜野寒衣哉薄片曾木之行合前尔霜ユキカナ置覽

天安元年甲戌二月廿八日伝受 住吉亞

人丸人名は欄上に記す、以下同 寿々登明石野浦野朝霧尔嶋陰行舟於紫曾思

業平 思事不言只尔曾息怒辺気我登等此気人之無气礼波

天武天皇 大沢野池野水草於吹野气天心之任尔月於宿讚南

天照太神 青柳野糸打波江天鷲野縫天宇笠波梅之花笠

貞觀十三年戊寅六月四日 業平在判

六十代 醍醐天皇 富士之根波何毛不断脱煙何成世余里立始メ気々留無

貫之 桜散木下風波寒賀良天空尔不知雪曾雨气留

時文 暮作礼波月待程野徊尔同高根尔鳴本登々气寸

順 阿此路本尔賀気天阿良江留唐錦何日積留南良之

天歷三年六月日

時文在判

長家 山高見春登毛不見雪雨天道行人野袖寒良之

天歷三年十二月廿三日

順在判

経信 住吉野松於風吹賀良尔枝於阿良宇奥津白浪

長徳元年十一月十八日

長家在判

俊頼 伊佐宵野月之光尔作曾波礼天何登毛不知旅臥紫天

天歷元年七月十八日

経信在判

俊成 千葉破留平野々松野枝紫気見千代尔哉々々尔色賀波留良紫

元久元年二月十八日

俊頼在判

定家 玉由良野露毛涙毛不遷無人恋留宿之秋風

元久二年十一月一日

俊成在判

為家 弊多寸木懸天曾憑合日之御杖野神野紫留紫於

建久元年十月三日

定家在判

為顯 鹿鳴秋野夕野々真葛原裏見天野見曾露波落奴留

文永十年十月三日

為家在判

神乘 天津空晴天毛不留賀富士野根野雲余里上尔見留白雪

弘安元年十一月十一日

為顯在判

明覚 新奇利仁波和賀待毛野於時鳥難登賀雲井野外尔鳴覽

寿歴三年正月十八日

神乘在判

12 口中深存義 滋

13 十二人之化身之事

14 内道論

〔深秘口伝集上〕

(目錄) 龍田河之事・御手洗川之事・齊宮之段・業平人丸末

ヲ読哥事・月哉不有之事・陽成院事

15 第一竜田河之事

16 〔月哉不有之事〕 (欠前半)

17 〔陽成院事〕

〔深秘口伝集下〕

(目錄) 人丸三所墓之事・仁和中将二義事・小野小町時代不

同事・無何有里之事・月神日神之事・不見不有事

18 第一人丸三所墓之事

19 〔仁和中将二義事〕

20 〔小野小町時代不同事〕

21 〔無何有里之事〕

22 〔月神日神之事〕

23 〔不見不有事〕

24 〔伊勢物語下云事〕

25 〔伊勢二字義〕

26 伊勢物語百廿段之異名

27 物語五種之異名

昔男并星宮之口伝之事

28 昔男

29 星宮之口伝之事

30 阿古根ノ浦之口伝之事

31 中将入滅記之事

32 古今之二字秘密之事

33 和調二字深義 又云金玉双ノ義

34 三河深義

第二類第二系 口

水府明德会彰考館文庫蔵A本 (彰考館A本)

1 王伝深秘卷(注)

2 抑三十一字に極る事

3 三十一神

4 土句に三種深義あり

5 〔奥書〕

王伝者住吉大明神の御作也天安元年正月廿八日在中將に
是を授給ふ業平奉進ノ大神宮云々延喜御門に奉進云々今此玉
伝高ノ貴大明神在中將に授たまふ業平伊勢太神ノ宮に授奉
る大神宮より延喜に授給へりしよりノ以来二条の家の重宝
として他家にをよほさるノ秘伝也宿習最深によつて此奥
儀を聞得たりと云々

6 「玉伝深義口決」

7 七哥鳥風問答記大納言。□信記
源

8 阿古根浦口伝

9 「大明神義」

10 血脉次第中納言藤原延光左大臣俊高ノ大納言藤原定家大納
言藤原為家侍従ノ為頭権律師神乘

11 同血脉年号奥書住吉大明神

夜野寒衣哉薄片曾木之ノ行合野前余霜哉置覽

人丸

寿々登明石野浦野朝霧余ノ嶋隠行船於四曾思

天安元年正月廿八日伝受 住吉亞

業平

思事不言只余曾息努辺氣ノ我登等此氣人之無氣礼波

文武天皇

大沢野池之水草出吹野氣天ノ心之任月於宿讚南

天照太神

青柳之糸打波江天鷲野ノ縫天宇笠波梅之花笠

貞觀十三年六月四日 業平御判

醍醐天皇

富士之根波何毛不断晚煙ノ何成世金里立妃氣無
不断思イ余始里イ本

貫之

桜散木下風波冷賀良天ノ曾良余不知雪曾雨氣留

時文

暮作礼波月待程野佃余ノ同高峯余鳴本登々氣寸

順

阿紫路木余賀氣之阿良江留唐錦ノ何日積留換南良之

天曆三年六月一日 時文在判

長家

山高見春登毛不見雪降天ノ道行人野袖寒良之

天曆三年十二月廿三日 順在判

経信長家養子

住吉野松於秋風吹賀良余ノ下枝於阿良宇興津白南見

長徳元年十一月十三日 長家在判

弘安元年十二月十一日 明寛在判

俊頼

性印

伊作宵野月之光（カ）曾波礼（カ）之何登毛不知宿紫（カ）之天毛賀

新音緒波和賀待毛野於郭公離登賀雲井野外（カ）鳴覽

元久元年七月十八日 経信在判

嘉暦三年正月十八日 神垂在判

俊成

12 口中深存義滋

千葉破留平野々松野枝之氣見ノ千代（カ）弥千代（カ）色賀波留

13 十二人化身事

良紫

14 内道論

元久元年九月十八日 俊頼在判

〔深秘口伝集上〕

定家

〔目録〕龍田川事・御手洗河事・齋宮段・業平人丸歌末読事

玉由良野露毛涙毛不逗ノ無人恋留宿之秋風

・月哉不有事・陽成院事

承久二年十一月一日 俊成在判

15 第一〔龍田川事〕

為家

16 次〔御手洗河事〕

幣多寸木懸（カ）之曾憑合日草ノ今日之御稜野神野紫留紫於

17 次業平人丸の哥の末を讀と云事

建久元年十月三日 定家在判

18 次齋宮段

為頭

19 次〔月哉不有事〕

鹿鳴秋野夕野真（カ）。原ノ裏見野見曾露波落（カ）

20 〔陽成院事〕

文永十年三月三日 為家在判

〔深秘口伝集下〕

神乘

〔目録〕人丸三所墓事・仁和中將二義事・小野小町時代不同

天津空晴天毛不留賀富士野祢野ノ雲余里上亦見留白雪

事・無何有里事・月神日神事・不見不有事

21 第一人丸三所墓

22 〔仁和中将二義事〕

23 〔小野小町時代不同事〕

24 〔無何有里事〕

25 〔月神日神事〕

26 不見不有事

27 伊勢の二字

28 伊勢物語百二十段異名

29 物語五種異名

昔男并星宮之口伝

30 〔星宮之口伝〕

31 阿古根浦口伝〔之日記〕

32 中将入滅記

33 三河深義

34 非月哉 又説

35 業平交會女 付隠名

36 古今二字秘密

37 和歌二字深義 又云金玉双義

38 金札伝

玉伝終

39 五人死所并本地

40 ほのくくと〔の歌の事(仮題)〕

41 又人丸秘譚あり

42 人丸出所縁起

43 赤人出所縁起

44 赤人縁起有説

45 〔四人人丸事〕

46 人丸内裏に竹壺に崇らるゝ事

47 合身の事

48 二人秘名

49 古今二十卷異本

50 〔和歌淵底秘抄〕

51 九章密伝

52 水体事

53 燧野守と云る事

54 〔古今集物名抄(仮題)〕

玉伝集終

善観

ホノノクト アカシノ浦ノ

アサキリニ

厚薄

シマカクレニク

フネオシソラモフ

浅深 問答

曼殊院藏本（曼殊院本）

1 玉伝深秘卷 注

2 抑歌ノ文字三十一字に極る事

3 三十一神

4 土句三種深義あり

5 〔奥書〕

玉伝者住吉大明神の御作也天安元年正月廿八日在中将是を授給ふ。奉進太神宮云々延喜御門奉進、今此玉伝高貴大明神在五中将に授たまふ業平伊勢大神宮に授奉る太神より延喜授給へりしより以来一条の家の重宝として他家にをよほさる秘伝也宿習最深によつて此奥義を聞得たりと、

6 〔玉伝深義口決〕

7 七哥鳥風問答 大納言源経信記

8 阿古根浦口伝

9 〔大明神義〕

10 血脉次第中納言藤原延光左大臣俊高大納言藤原定家大納言藤原為家侍従為顯権律師神乘

11 同血脉年号奥書 住吉大明神

夜野寒衣哉薄片曾木之行合野前問イ（朱）霜哉置覽

人丸ハノイ（朱）登明石野浦野朝霧尔嶋隠行船於四曾思

一初生トニ梁塵世界ニ朝立霧ニ四魔滅ニ念仏一母ノ胎内出ヲ云我トヘタテナシト云ニ此世界難シ請人身ト生ル云大千世界モ一仏ト云ニ三毒ノ朝ナクタナク煩惱起ヲ云リ早死替所ヲ云虚空打破也五本来無一物ノ所也則大円鏡智ト云也

天安元年正月廿八日伝授 住吉 亞

業平

思事不言只尔曾息怒辺気我登等此気人之無気礼半

文武天皇

大沢野池野草於吹野気天心之任月於宿讚南

天照大神

青柳之糸打波江天鶯野縫天宇笠波梅之花笠

貞観十三年六月四日 業平御判

醍醐天皇

富士之根波何毛不断晚煙何成世余里立始気無

貫之

桜散木下風波冷賀良天曾良尔不知雪曾雨氣留

時文 天曆三年六月一日時文判在

暮作礼波月待程野偃尔同高峰尔鳴本登々气寸

順 天曆三年十二月廿三日

阿紫路木介賀氣之阿良江留唐錦何日積留換南良之

天曆三年六月一日

長家 長德元年十一月十三日 時文在判

山高見春登毛不見雪降天道行人野袖寒良之

天曆三年十二月廿三日

順 在判

經信長家養子

住吉野松於秋風吹賀良余下枝於阿良宇與津白南見

長德元年十一月十三日

長家在判

俊賴

伊作宵野月之光余。曾波礼之何登毛不知宿紫之天毛賀

元久元年七月十八日

經信在判

俊成

千葉破留平野々松野枝之氣見千代余弥千代余色賀波留良紫

元久元年九月十八日

俊賴在判

定家

玉由良野露毛淚毛不逗無人恋留宿之秋風

承久二年十一月一日

俊成在判

為家

幣多寸木懸之曾憑合日草今日之御被野神野紫留紫於

建久元年十一月三日

定家在判

為顯

小鹿鳴秋野夕野真葛原裏見。野見曾露波落

文永十年三月三日

為家在判

神乘垂イ 弘安元年十二月十一日

天津。空晴天毛不留賀富士野祢野雲余里上余見留白雪

弘安元年十二月十一日

明覚在判

性印

新音緒波緒波和賀待毛野於郭公難登賀雲井野外余鳴覽

嘉曆三年正月十八日

神乘在判

伊勢物語ヲ口中ノ新作ト云也

12 口中深存義 滋春 垂イ

13 〔内道論〕 (欄上に片仮名交りの補入あり)

〔深秘口伝集上〕 (目錄) 龍田川事・御手洗河事・齋宮段・業平人丸歌ホ読事

・月哉不有事・陽成院事

14 第一〔龍田川事〕

15 次〔御手洗河事〕

16 次業平人丸の哥の末を讀と云事

17 次齋宮段

- 18 次〔月哉不有事〕
- 19 〔陽成院事〕
〔深秘口伝集下〕
- (目録) 人丸三所、墓事・仁和中将二義事・小野小町時代不
同事・無何有里事・月神日神事・不見不有事
- 20 第一人丸三所墓
- 21 〔仁和中将二義事〕
- 22 〔小野小町時代不同事〕
- 23 〔無何有里事〕
- 24 〔月神日神事〕
- 25 不見不有事
- 26 伊勢の二字
- 27 伊勢物語百二十段異名 (三イ(朱) 以下朱) アリ近年不用条是不書
- 28 物語五種異名
昔男并星宮之口伝
- 29 〔星宮之口伝〕
- 30 阿古根浦口伝〔之日記〕
- 31 中将入滅記
- 32 三河深義
- 33 非月哉 又説
- 34 業平交會女付隠名
- 35 古今二字秘密
- 36 和歌二字深義又云金玉双義
- (37) 三河ノ八橋ト云事(片仮名交りの行間補入、32に略同内容)
- 38 金札伝
玉伝終
- 39 五人死所并本地
- 40 ほのくゝと〔の歌の事(仮題)〕
- 41 又人丸秘哥
- 42 人丸出所縁起
- 43 赤人出所縁起
- 44 赤人縁起有説
- 45 〔四人人丸事〕
- 46 人丸内裏竹 本ノマ、ニ 壺崇らるゝ事
- 47 合身の事
- 48 二人。秘名 ノ女
- 49 古今二十卷異
- 50 〔和歌淵底秘抄〕(行間補入有り)

51 九章密伝

52 水体事

53 燧野守と云事

54 「古今集物名抄（仮題）」

玉伝集終

善観 ホノノト 莊蔽 アカシノ浦ノ 厚薄 アサキリニ 浅深 シマカクレユク 問答 フネヲシソオモフ

(55) 「奥義抄下巻余 問答 抜粹（仮題）」（以下増補部分）

(56) 和哥九品次第（奥義抄より抜き書きか）

(57) 十体ノ次第（同右）

第二類第三系 イ

神宮文庫蔵本（神宮本）

1 玉伝深秘卷

2 土の句に三しゆのしんぎあり

3 「奥書」

玉伝ハオミよし大ミやうじんの御さく也／てんあんぐわん
ねん正月廿八日在中将／にこれをさつめたまふなりひらた
いじん／宮にしんじたてまつると云々
だいじん宮よりゑんきのみかとしんじ／たてまつると云々

いまこのぎよくでん／高貴大ミやうじん在ちうしやうにさつ

け／たまふなりひらいせ太神宮にさつけたて／まつる太神

宮よりゑんきにさつけ給ふ／しかつしよりこのかた一ぢう

のいゑのちうほう／としてたけにおよほさるゝなり宿習深原

にして此おくぎをきゝゑたりと云々

4 「玉伝深義口決」

5 七哥鳥風問答の記大納言経信記

6 阿古根浦 口伝

7 「大明神義」

8 血脉の次第

中納言藤原延光 ウチナゴトノフジノハラノノブヒコ 右大臣俊高 ウチナゴトノトシタカ 大なごんふちはらのさだい

ゑ／大なごんふちはらのためいゑ／侍従為顯 権律師神乘

9 おなしく血ミやく年号奥書

すみよし大ミやうじん

夜やさむきころもやうすしかたそきの／ゆきあひのまにし

もやおくらむ

人丸

ほの／とあかしのうらのあさきりに／しまかくれゆくふ

ねをしそおもふ

天安元年二月廿八日伝授住吉亞

なりひら

思事はてたゝにややみぬへし／われとひとしき人しなけ
れは

てんむてんわう

ひろさわのいけのミつくさやきのけて／こころのまゝに月
をやとさむ

てんしやうだいじん

あをやきのいとうちはへてうくひすの／のふてふかさハむ
めのはなかさ

貞観十三年六月四日

なりひら在判

だいごてんわう

ふじのねはいつもたえすのゆふけふり／何成思ひよりたち
はしめけむ

つらゆき

さくらさくこのしたかせハさむからて／そらにしられぬゆ
きとふりける

とさふ

ゆふされは月まつほとこの個に／おなしたかねになくほと
きす

順

あしる木にかけてあらへるからにしき／何日積留せりなるらむ
天曆三年六月一日 時文在判

ながいゑ

山たかみはるとも見えすゆきふりて／みちゆき人のそてさ
むからし

天りやく三年十二月廿三日

順在判

つねのふ なかいゑやうし

すみよしのまつをあきかせふくからに／したゑをあらふお
きつしらなみ

長徳元年十一月十三日

ながいゑ在判

としより

いざよひの月のひかりにさそはれて／何としらすやとして
しもか

天りやく元年七月十八日

つねのふ在判

としなり

ちはやふるひらのゝ松のゑだけしけし／ちよにやちよにい
ろかはるらし

元久元年九月十八日

としより在判

定家

たまゆらの露もなみたもとゝまらす／なき人こふるやとの
あきかせ

承久二年十一月一日

としなり在判

ためいゑ

たまたすきかけてそたのむあふひくさ／けふのみそきのか
みのしるしを

建長元年十月三日

定家在判

為顯

しかのなくあきのゆふへのまくすはら／うらみてのミそつ
ゆはこほるゝ

文永十年三月三日

為家在判

神垂

あまつそらはれてもふるかふしのねの／くもよりうへにみ
ゆるしらゆき

弘安元年十二月十二日

明覚在判

性仰

はつねをはわかまつものをほとゝきす／なにとかくもゐの
ほかになくらん

嘉暦三年正月十八日

神乗在判

10 中深存義(中深) 滋春

11 内道論

〔深秘口伝集上〕

(目録) たつたかハの事・みたらしかハの事・齋宮段の事・

人まるうたのすゑ
なりひらよむ事
・月哉不有事・陽成院事

12 第一「たつたかハの事」

13 「みたらしかハの事」

- 14 つぎになりひら人まるのうたのすゑをよむといふ事
- 15 齋宮段
- 16 〔月哉不有事〕
- 17 〔陽成院御事〕
〔深秘口伝集下〕
- (目録) 人丸三所墓の事・仁和中将二義事・小野小町時代不
同事・無何有里事・月神日神事・不見不有事
- 18 第一人まる三しよのつか
- 19 〔仁和中将二義事〕
- 20 〔小野小町時代不同事〕
- 21 〔無何有里事〕
- 22 〔月神日神事〕
- 23 〔不見不有事〕
- 24 伊勢の二字
- 25 いせものかたり百三十段いみやう
- 26 物かたり五しゆのいみやう
むかしおとこならびに星宮口伝事
- 72 むかしをとこ
- 28 皇宮口伝 伊勢
- 29 阿古根浦 口伝〔之日記〕
- 30 中じやう入滅記
- 31 古今二字のひみつ
- 32 和哥の二字しんぎ又いわく金玉双義
- 33 三河深義
- 34 金札伝
玉伝終
- 35 ほのくくと〔の歌の事(仮題)〕
- 36 又人まる秘歌
- 37 非月哉 又説
- 38 なりひら交會付隠名
- 39 五人死所并本地
- 40 人丸出所ゑんぎ
- 41 赤人出所縁起
- 42 赤人縁起有説
- 43 〔四人人丸事〕
- 44 人丸内裏の竹壺にたゝりめてらるゝ事
- 45 合身の事
- 46 二人秘名

47 古今二十卷のいみやう

48 〔和歌淵底秘抄〕

49 九章ミつでん

50 水体事

51 燧火の野守といふ事

52 〔古今集物名抄（仮題）〕

53 〔奥義抄下卷余 問答 抜粹（仮題）〕

54 和哥九品（奥義抄より抜き書きか）

55 十体の次第（同右）

56 三十一神

第二類第三系 ロ

水府明德会彰考館文庫蔵B本（彰考館B本）

1 玉伝深秘卷

2 土ノ句ニ三種ノ深義アリ

3 〔奥書〕

玉伝ハ住吉ノ御作也天安元年正月廿八日ノ在原中将業平ニ授ケ給フテ奉進大神宮ノ大神宮其後延彦御門ニ授給フトナリ其ノヨリ一条家ノ重宝トシテ他見見ニヲヨホサ、ルノ秘伝

也宿習究リ深ノ此ノ奥儀ヲ聞得タリト云々

4 〔玉伝深義口決〕（首欠）

5 七哥鳥風問答記ハ大納言経信記ス

6 阿古根ノ浦口伝

7 〔大明神義〕

8 血脉次第 中納言藤原ノ延光 右大臣俊ノ高中納言藤原定

家 大納言藤原為家ノ侍従為頭権律師神垂

9 同血脉年号奥書

住吉大明神

夜野寒衣哉薄片曾木乃行合乃間仁霜也置覽

人丸

若々登明石乃浦乃朝霧仁嶋隠行舟於思曾思

業平 天安元年二月廿八日伝授住吉読

思事不言只余曾止奴辺幾我止等人志無氣礼波

天武天皇

大沢の池の水草於押乃気天心の儘仁月於宿佐牟

天照大神貞観十三年六月四日業平在判

青柳の糸打波陪天鶯の縫本布笠ハ梅の花笠

西西天皇

富士の根ハ早晚も絶セ須夕煙誰思日余利立始梟貫之

桜散木の下風ハ寒加羅て空亡知れぬ雪を降ける

時文 天厂三年六月一日時文在判

夕左れハ月待程の憫ニ同志高根ニ鳴保土登幾寸

源順 天厂三年十二月廿三日

阿代木ニ懸て阿良布る唐錦何日積れる授なるらん

長家 長徳二年十一月十三日在判

山高ミ春共不見雪降て道行人の袖寒加らて

経信 長家ノ養子

住吉の松於秋風吹加らに下枝於洗布奥津白波

俊頼 天厂元年七月十八日

以左宵の月の光仁佐曾和れて何共不知宿し天し加も

俊成

千早振平野の松の枝繁ミ千代仁八千代仁色替るらし

定家 承久二年十一月一日

玉太連の露も泪も不留無人恋る袖の秋風

為家 同元年十月三日

綿太須木懸てそ頼む合日草今日の御杖の神の璽仁

為頭 文永十年三月三日

鹿鳴秋の夕の真葛原波羅井て能美そ露波乱れし

神垂 弘安元年十二月十一日明覚在判

天津空晴ても降か富士の根の雲より上に見ゆる白雪

性予 嘉厂三年正月十八日神垂

新智尾波我待物於蜀魂屋与か雲井の外仁鳴覽

10 口中深義いせ物語ヲ口中深義ト云也 滋春

11 内道論

〔深秘口伝集上〕

〔目録〕龍田川ノ事・御手洗川事・齋宮段ノ事・業平人丸

ノ末読事・月哉不有ノ哥事・陽成院事

12 龍田川ノ事

13 〔御手洗川事〕

14 〔業平人丸ノ末読事〕

15 齋宮ノ段

16 〔月哉不有ノ事〕

17 〔陽成院事〕

〔深秘口伝集下〕

〔目録〕人丸三所墓事・仁和中将二儀事・小野小野時代不同

事・月神日神事・無何有里事

- 18 人丸三所墓事
- 19 「仁和中将二儀事」
- 20 「小野小野時代不同事」
- 21 「無何有里事」
- 22 「月神日神事」
- 23 「みすもあらすの事」(目錄になし)
- 24 伊勢ノ二字
- 25 伊勢物語百三十段異名アリ近年不用条是ヲ不書(本文なし)
- 26 皇宮口伝(抄出)
- 27 阿古根ノ浦口伝「之日記」
- 28 中将入滅ノ記
- 29 「古今二字秘事義」
- 30 和哥ノ二字之事
- 31 三河八橋ト云事
- 32 金札伝
- 33 人丸出所縁記ノ事
- 34 ホノノト「の歌の事(仮題)」
- 35 又秘哥人丸
- 36 「四人人丸事」(抄出)
- 37 合身ノ事
- 38 「業平生没年(仮題)」
- 39 業平交会ニ付テ隱名
- 40 「非月哉」
- 41 五人死所并本地ノ事
- 42 赤人根元縁起事
- 43 又ノ説
- 44 二人ノ女ノ秘名
- 45 古今廿卷異名
- 46 「和歌淵底秘抄」(抄出)
- 47 九章密伝
- 48 三曲章「の事(仮題)」(含「水体」)
- 49 燧ノ野守ト云事
- 50 「古今集物名抄(仮題)」
- 51 「奥義抄下卷余 問答 抜粹(仮題)」
- 52 和哥九品次第(奥義抄より抜き書きか)
- 53 十体次第(同右)
- 54 卅一神之事

(正徹等本奥書)

(55) 柿本人丸・神無月ノ事

宮内庁書陵部蔵A本(書陵部A本)

1 玉伝深秘卷

2 土ノ句ニ三種ノ深義アリ

3 [奥書]

玉伝者住吉ノ御作也天安元年正月廿八日ニ在原中將業平ニ授ケ給フテ奉進^ニ太神宮ノ太神宮其後延喜御門ニ授給フト也其ヨリノ一条家ノ重宝トノ他見ニヲヨホサル秘伝ナリノ宿習究リ深ノ此ノ奥儀ヲ聞得タリト云ク

4 [玉伝深義口決](首欠)

5 七哥鳥風問答ノ記ハ大納言経信記ス

6 阿古根浦口伝

7 [大明神義]

8 血脉次第 中納言藤原^{中イ}延光右大臣俊高ノ大納言藤原定家大

納言為家侍從為頭ノ權律師神垂

9 同血脉年号奥書

住吉大明神

夜野寒衣哉薄片曾木之行合野間仁霜也置覽

人丸

若々登明石野浦野朝霧尔嶋陰行舟於四曾思

業平 天安元年二月廿八日伝ニ授住吉ニ讀

思事不言只尔曾止怒辺気我登等人之無氣礼波

天武天皇

大沢野池之水草押野気手心乃尔月越宿讚

天照太神 貞觀十三年六月四日 業平在判

青柳の糸打波江天鶯野縫天宇笠波梅之花笠

醍醐天皇

富士之根波早晚茂断世寸夕烟何成思^{誰イ}余里立始梟

貫之

桜散木下風波寒加良天曾良尔志良礼怒雪波降気留^曾

時文 天曆三年六月一日時文 判在^{判イ}

暮左礼波月待程乃个仁同高根尔鳴本登々气寸

源順 天曆三年拾貳月廿三日

阿代木尔掛手阿羅^{不敷}留唐錦何日積留^{紅葉}援南留覽

長家 長徳元年十一月十三日在判

山高見春共不見雪降天道行人能袖寒賀良之

経信 長家ノ養子

住吉野松尾秋風吹加良仁下枝尾洗奥津白南見

俊頼 仁歌 天曆元年七月十八日

伊左宵野月農光仁左曾我手何共不知宿志天之毛如

俊成

千波破振平野々松能枝繁見千代仁八千代耳色替留良之

定家 承久二年拾一月一日同

玉多礼濃露毛泪毛不留無人恋留袖野秋風

為家 同元年十月三日同

弊多寸木懸手曾頼合日卿今日能御被野神能志留紫仁

為頭 文永十年三月三日

鹿鳴秋能夕能真葛原腹井手野見曾露波乱留々

神垂 弘安元年十二月十一日明覚在判

天津空晴天毛不留加富士野根能雲従上仁見由留白雪

性予 嘉曆三年正月十八日 神垂

新音波我待者尾時鳥野与加雲井野外仁鳴覽

10 口中深存儀 伊勢物語ヲ口中深儀ト云也
イ无

11 内道論

〔深秘口伝集上〕

(目錄) 立田河事・御手洗河事・齋宮段事・業平人丸歌末読

事・月哉不有哥事・陽成院事

12 立田川事

13 〔御手河事〕

14 〔業平人丸歌末読事〕

15 齋宮ノ段

16 〔月哉不有哥事〕

17 〔陽成院事〕

〔深秘口伝集下〕

(目錄) 人丸三所墓事・仁和中将二儀事・小野小町時代不同

事・月神日神事・無何有里事

18 人丸三所墓事

19 〔仁和中将二儀事〕

20 〔小野小町時代不同事〕

21 〔無何有里事〕

22 〔月神日神事〕

23 〔不見不有事〕(目錄になし)

24 伊勢ノ二字

25 伊勢物語百三十段異名アリ近年不用条是ヲ不書也(本文な

- し)
- 26 皇宮口伝(抄出)
 27 阿古根浦口伝〔之日記〕(抄出)
 28 中将入滅ノ記
 29 〔古今二字秘事義〕
 30 和哥二字
 31 三河八橋ト云事
 32 金札伝
 33 人丸出所縁記
 34 保野ミミト〔の歌の事〕(仮題)
 35 又秘哥人丸
 36 〔四人人丸事〕(抄出)
 37 合身ノ事
 38 〔業平生没年〕(仮題)
 39 業平交會ニ付 隱名
 40 〔非月哉〕
 41 五人、死所并本地等ノ事
 42 赤人根元縁起事
 43 又説

- 44 二人ノ女ノ秘名
 45 古今二十卷異名
 46 〔和歌淵底秘抄〕(抄出)
 47 九章密伝
 48 三曲章〔の事〕(仮題)(含「水体」)
 49 燧ノ野守ト云事
 50 〔古今集物名抄〕(仮題)
 51 〔奥義抄下卷余 問答 抜粹〕(仮題)
 52 和哥九品次第(奥義抄より抜き書きか)
 53 十体次第(同右)
 (54) 至極体(小字補入)
 55 三十一神之事
- 宮内庁書陵部蔵B本(書陵部B本)
- 1 玉伝深秘卷
 2 土ノ句三種ノ深義アリ
 3 〔奥書〕
- 玉伝者住吉ノ御作也天安元年正月廿八日在原中ノ將業平
授ケ給フテ奉ニ進ニス 太神宮ニ太神宮其後延ノ喜ノ御門授ケ

給^{タマ}フト也^{ナリソレ}其^コヨリ二^ニ条^{ジョウ}家^ケノ重^{チヤウ}宝^{ホウ}ト^トノ他^タ見^ミノヲヨボサ^ル秘^ヒ伝^{デン}也^{ナリ}

4 〔玉伝深義口決〕(首欠)

5 七^{シチ}哥^カ鳥^{チウ}風^{フウ}問^{モン}答^{ダウ}記^キ大^{ダイ}納^{ナク}言^{ゴン}経^{キョウ}信^{シン}記^キス(欠後半)

6 〔血脉年号奥書〕

(首欠)

人丸

若^{ホノ}々^ト登^ト明^ア石^シ野^ノ浦^ウ野^ノ朝^{アサ}霧^{キリ}余^ニ嶋^{シマ}陰^{カクレ}行^レ船^ネ於^フ四^シ首^{ソウ}思^シ

業^{ナリ}平^{ヒラ}天^ア安^ン元^グ年^ン貳^ニ月^{グワツ}廿^ニ八^{ハチ}日^{ニチ}伝^{デン}授^{ジュ}住^{ジュ}吉^{キチヨム}一^ニ読^{ヨム}

思^シ事^ジ不^フ言^{コト}只^タ余^ニ曾^{ソノ}止^ト努^ニ辺^ヘ氣^キ我^{ワレ}登^ト等^ト人^{ヒト}之^ノ無^ム氣^キ礼^{レイ}波^ハ

天^{テン}武^ム天^{テン}皇^{ワウ}

大^{オホ}沢^{サハ}野^ノ池^{イケ}之^ノ水^{ミズ}草^{クサ}於^カ押^{オシ}野^ノ氣^ケ手^テ心^{ココロ}乃^ノ俛^{ムク}余^ニ月^{ツキ}越^ワ宿^{ヤド}讚^{サン}

(数条欠)

俊^{シユン}頼^リ天^{リヤク}曆^{クワシ}元^{ワシ}年^{ネン}七^{シチ}月^{ゲツ}十^{ジュウ}八^{ハチ}日^{ニチ}

伊^イ左^サ宵^{ヨイ}野^ノ月^{ツキ}農^ノ光^{ヒカリ}仁^ニ左^サ曾^{ソノ}我^{ワレ}手^テ何^{ナニ}共^{トモ}不^{シラ}知^ズ宿^{ヤド}志^シ天^テ毛^{カスク}加^{ヘマ}

俊^{シユン}成^{セイ}

千^チ波^ハ破^ハ振^ハ平^{ヒラ}野^ノ松^{マツ}能^ノ枝^エ繁^{シゲ}見^ミ千^チ代^{ダイ}仁^ニ八^{ハチ}千^チ代^{ダイ}耳^{ミミ}色^{イロ}替^カ留^ル良^{ラジ}之^マ

(以下欠)

7 口^{カウ}中^{チュウ}深^{シン}存^{ゾン}儀^ギ 滋^{シユン}春^{チユン} (欠後半)

8 人^{ヒト}丸^{マル}三^{サン}所^{ショ}墓^ボ事^{コト}

9 〔仁和中将二儀事〕

10 〔小野小町時代不同事〕

11 〔無何有里事〕(抄出、「別紙相伝有り」と付記す)

12 〔古今二字秘密義〕

13 和^ワ哥^カ二^ニ字^ジ

14 三^ミ河^カ八^{ハチ}橋^{ハシ}ト云^{コト}事^{コト}

15 金^{キン}札^{サツ}伝^{デン}

16 人^{ヒト}丸^{マル}出^{シュツ}所^{ショ}縁^{エン}記^キ

17 保^ホ野^ノ々^ト〔の歌の事(仮題)〕

18 又^{マタ}秘^ヒ哥^カ人^{ヒト}丸^{マル}

19 〔四人々丸〕(抄出)

20 合^{ガウ}身^{シン}事^{コト}

21 〔業平生没年(仮題)〕

22 業^{ナリ}平^{ヒラ}交^{カウ}会^{カイ}付^{ツキ}隠^{イン}名^ナ

23 〔非月哉〕(歌のみ示し、「別紙口伝」と)

24 五^イ人^ニ死^シ所^{ショ}并^ニ本^{ホン}地^ヂ

25 赤^{アカ}人^{ヒト}根^ネ元^{ゲン}縁^{エン}記^キ事^{コト}

26 又^{マタ}説^{セツ}

27 二^ニ人^{ヒト}ノ女^メノ秘^ヒ名^ナ

- 28 古今二十卷異名ココン イミヤウ
- 29 「和歌淵底秘抄」(抄出)
- 30 九章密伝クウショウヒツデン
- 31 三曲章「の事(仮題)」(含「水体」)サンキョクショウ
- 32 燧ノ野守ト云事ヒノノモリ
- 33 「古今集物名抄(仮題)」
- 34 「奥義抄下卷余 問答 抜粹(仮題)」
- 35 和歌九品次第ワカクホシノシグダイ(奥義抄より抜き書きか)
- 36 十体次第タイシノダイ(同右)
- 37 三十一神之事

小題細目対照表

以上の通り詳記した諸本項目の配列の差、出入を示す表が以下の二表である。第一表に於ては、書陵部C本の配列に従い、他十一本の諸項を相当項のもとに配置した。表中の番号は細目に記す通し番号と対応している。第二表は第二類本のみの対照表である。第二表に於ては、名大本の配列に従い、他九本の諸項を同様に配する。数字は第一表に等しく細目対応の通し番号である。なお記号等の意味は次の通り。○符||題名・目録等が

存する。△符||右が不完全である。首||その項の冒頭、前||前半、中||中間、後||後半、尾||末尾がそれぞれ該当。不||本文なし。別||「別紙にあり」と注記す。抄||抄出・略記等。補||補入あり。()||増補項目。[切]||截取あり。

第一表では書陵部C本にない、他本の諸項を末尾に一括した。第二表も同様、名大本にない諸項を末尾に記す。

閲覧を御許可下された所蔵諸機関関係者の方々並びに学恩を被る諸先生、特に井上宗雄氏・片桐洋一氏・新井栄蔵氏・三輪正胤氏に篤くお礼申し上げます。

細目対照表(一)

第一類	第一系	
	第二系	
第二類	第一系	イロ
	第二系	イロ
	第三系	イロ

書 陵 部 C															
1	金玉双義														
2	自性論 灌頂 人丸赤人事														
3	四人人丸事														
4	合身義														
5	三公伝始書 身足翁義 住経														
6	人丸 名字事														
7	〔古今〕二字秘事ノ義														
8	古今二十卷異名														
9	燧深義 住														
10	水体事														
11	〔二人秘名〕														
12	金札伝 住 経信告														
13	ホノくト〔の歌の事(仮題)〕														
14	人丸秘哥														
15	五人死所事														
1															
2															
23	49	48	47	43	42	41									
38															
39	39	41	40	38	48	52	53	49							
39	39	41	40	38	48	52	53	49							
39	41	40	38	48	52	53	49								
41	41	40	38	48	52	53	49								
41	41	40	38	48	52	53	49								
24	18	17	15	27	34	32	33	15							
31															
16	千葉破深義														
17	大明神義 夢延光中納言														
18	〔血脉次第〕														
19	玉伝深秘卷 住吉														
20	三十一字 文字極事														
21	三十一神														
22	土句 三種深義														
23	奥善 <small>喜歌(ノ)</small>														
24	九章密伝 住														
25	〔九章密伝奥伝(仮題)〕														
26	血脉年号奥書代ト秘哥														
27	古今和歌師資相伝血脉譜														
28	伊勢物語 云事 二字義														
29	二字義 <small>齋宮段古今同</small> 龍田河古今														
30	〔大原大神の事(仮題)〕														
31	〔龍田河事〕														
10	18														
15	15														
15	15														
14	14														
12	12														
12	12														
12	12														

- 32 〔陽成院事〕
- 33 〔御手洗河事〕
- 34 〔業平人丸哥末〕読事
- 35 齋宮段
- 36 〔月ヤアラヌ事〕
- 深秘口伝集下此中七
- (目錄)
- 37 〔人麿三所墓事〕
- 38 〔仁和中将二義事〕
- 39 小野小町カ事
- 40 無何有里云事
- 41 〔月神日神事〕
- 42 〔ミスモアラス事〕
- 口中深存義并内道論 滋春
- 43 〔口中深存義〕
- 44 十二人化身事 住吉示経信
- 45 内道論 定家
- 昔義并星宮口伝
- 46 〔昔義〕

7	○				18	17	16	15	14	13	○	○	12	11			
34	○	17	16	15	28	27	26	25	24	23	○	○	21	20	19	22	
31	△	14	13	12	26	25	24	23	22	21	○		19	18	17	16	20
28	△	14	13	12	23	22	21	20	19	18	○		16	18	17	16	17
	△	14		12	26	25	24	23	22	21	△		19	18	17	16	20
	△	13		12	25	24	23	22	21	20	△		18	17	16	15	19
27	△	11		10	23	22	21	20	19	18	△		16	15	14	13	17
		11		10	23	22	21	20	19	18	△		16	15	14	13	17
		11		10	23	22	21	20	19	18	△		16	15	14	13	17
				7			11	10	9	18							

- 47 星宮口伝
- 48 阿古根浦口伝之日記
- 49 阿古根浦口伝
- 50 奥書 業平作
- 非月哉 并絶入
- 51 〔非月哉〕
- 52 七月七日絶入事
- 三河義 女隠名
- 53 〔三河義〕
- 54 会合女事/隠名
- 55 中将入滅記 滋春作
- 56 物語次第
- 57 伊勢物語百二十段異名
- 58 物語五種異名
- 59 交会女合始月日事
- 60 伊勢物語師資相承血脉譜
- 61 伊勢物語要文哥集
- 62 〔和歌大綱〕カ
- 63 〔和歌淵底秘抄〕

													17	16			
60					19	46	45								9	8	
					37										36	35	
					34										8	8	
					31										8	8	
					32										8	8	
50					31										8	8	
50					34										8	8	
					31										8	8	
					34										8	8	
					(37)										8	8	
					32										8	8	
					31										8	8	
48					37										6	6	
46					40										6	6	
46					40										6	6	
29					23										6	6	

64 題哥書様

65 題切紙同書様

66 和歌伝受灌頂私記 經信始奉授堀河院次第也

67 伊勢物語口伝并注

68 伊勢物語口伝二并注

69 伊勢物語口伝三并注

70 伊勢物語口伝四并哥

71 伊勢物語口伝六 五歌并女共入違多

72 伊勢物語口伝七 六歌

73 伊勢物語口伝八 七歌并注

書陵部C本にない項目

付記 初雁本には上記表覽中に見出し得ない以下の項目が存する。即ち、

3・4・5・6・7・8・9
・10・18・19・20

である。解題中にも言及したところではあるが、上表に合わせ付注した。

56	55	54	44	8	7	22	63	62	61
				7	6				
44	43	42	54	7	6				
44	43	42	54	7	6				
42	41	40	52						
43	42	33	50	38					
43	42	33	50	38					
26	25	16	33	21					

細目対照表(二)

名	大	第二類	第一系	口
斯	道		第一系	イ
祐	徳		第二系	イ
祐	徳			口
彰	館	ABA院		
曼	殊			
神	考	宮	第三系	イ
彰	考	B		口
書	陵	ABA		
	部			

	(57)	(56)	(55)
55	55	54	53
	53	52	51
54	53	52	51
	36	35	34

- 48 保濃く／＼と〔の歌の事(仮題)〕
- 47 金札伝 住吉大明神 告_ニ経信卿_ニ
- 46 交会女_{カケライノ}事付隠名_{カシヤ}
- 45 三河_{ミカハ}儀
- 44 物名詞深秘口伝記之并台類事
- (欠「古今二十卷秘名」)
- 43 二人秘名
- 42 水体事
- 41 燧_{トビ}、深義 住吉
- 40 身足翁_{ミタラウヤノヤ}儀号三公伝 住縁_{ヌヅメ}
- 39 「金玉双義」(欠前半)
- 38 古今二字秘密義(欠後半)
- 37 中將入滅記
- 36 阿古根浦口伝日記
- 35 星ノ宮ノ口伝
- 34 「昔之義」
- 昔之義并星ノ宮ノ口伝
- 33 交会女合始_{ツキ}月日事
- 32 物語五種異名_{イニミヤナ}

40	38	35	37 34 33 (37)	54	47	51	52	36 33 37 36	35 32 36 35	34 31 32 31	33 30 31 30	32 29 30 29	31 28	○ △ △ ○ ○	30 27 29 28	35 34 34 17	38 32 32 15	38 39 39 22	33 31 31 14	52 50 50 33	46 44 44 27	50 48 48 31	後後後後 後後後後	51 49 49 32	32 30 30 13	31 29 29 12	30 28 28	29 27 27抄 26抄	28 26 26抄	27	○	26

64	49	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	9章 蜜伝	和詞伝授灌頂私記 経信卿作	題切紙同書やう	題哥書様	〔和歌淵底秘抄〕(首欠)	合身義(欠後半)	人丸大内の竹壺に崇 _{アカ} らるゝ事	〔四名義〕	四名儀并人丸を崇大内竹壺事	赤人の縁起 _{以前雖レ写_ニ上家本_一重而書_レ之下家}	赤人出所縁起 上家	人丸出所縁起 上家	五人死所事并本地	千葉破深儀	七月七日絶入の事	〔非月哉〕	人丸秘哥
51 51	41 41	37 40 40	34 33 33	34 33 33	39 42 42	42 42 42	43 43 43	44 44 44	45 45 45	46 46 46	47 47 47	50 50 50	48 46 46	45 45 45	44 44 44	43 43 43	42 42 42	41 41 41	40 40 40	39 39 39	37 37 37	36 36 36	35 35 35	34 34 34	33 33 33	32 32 32	31 31 31	30 30 30	29 29 29	28 28 28	27 27 27	○ ○ ○	26 26 26
48 48 31	47 47 30	後後後 後抄抄 後抄	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別	前前前 前前前 不別

各大本にない項目

					22	20 [切]
						16
						16
					(57)	15
					(56)	
					(55)	
					49	
					49	
					47	13
(55)	38	55	54	53	47	13
	38	53	52	51	45	13
(54)	38	53	52	51	45	13
	21	36	35	34	28	